

消えゆく被災地の貴重な方言

中西 太郎

(担当者：中西・石山理恵・田茂慧祐・平松且企)

1 はじめに

2011年3月11日に東日本を襲ったM9.0の地震と大きな津波は、東北地方を中心とした地域の住民に未曾有の被害をもたらしている。死者・行方不明者20,000人近く、家屋の損壊108万棟以上(2012年2月)、地元を逃れた避難者が最大時30万人に上るという戦後最悪の災害となった。

このように、東日本大震災(以降、本章では「大震災」と略する)は各地に甚大な被害を与えた。その影響で、慣れ親しんだ土地を離れざるを得ない人も、多く現われている。

東日本大震災で津波被害の大きかった岩手、宮城、福島3県の沿岸部にある市町村で、震災後に人口が計約5万人減少したことが9月8日、分かった。共同通信が住民基本台帳に登録された人口を沿岸部の37市町村に取材したもので、住民票を移さずに転居した人も多く、実際の人口減少はさらに進んでいるとみられる。

○福島県の人口200万下回る 33年ぶり

○宮城県沿岸部の推計人口が2万4千人減少

被災地では雇用情勢の悪化が続いているほか、住宅再建のめどが立たない被災者も多く、復興の遅れがさらなる人口流出につながる恐れもある。

各市町村の震災前(2月末～3月11日)と震災後(7月末～9月初め)の人口数を比較した。沿岸部の自治体では人口流出のほか津波による犠牲者も多い。

減少数が最も多かったのは宮城県石巻市で約9000人。減少率が最も大きかったのは、岩手県大槌町(おおつちちょう)で13%以上だった。

石巻市の担当者は「津波の浸水域は事業所の9割近く、世帯で7割以上。国には早く復興の制度を示してほしい」と訴える。

福島第1原発事故のため一部が立ち入り禁止の警戒区域となっている福島県南相馬市の人口は、震災前より約4500人減って約6万7000人。しかし、南相馬市が9月5日現在で確認したところ、市内で生活する住民は4万人ほどだったという。住民票は動かさずに避難した人が多いとみられる。

(<http://www.iza.ne.jp/news/newsarticle/event/disaster/527117/>より)

このような報告記事に示される通り、現在も被災地各地で人口の流出が進んでいると考えられる。こういったその土地に暮らす人々が各地へ流出するということは、その地域の方言を日常的に話し支える人が、その土地から減るということでもある。自然、土地土地に暮らす人とともにあるその土地の方言も、様々な形で影響を受けてくるだろう。

例えば、そういった人口流出が進む地域で話されていた方言の中には、その土地でしか用いられないものもあるだろう。そういった言葉を話す人が減れば、消滅へ向かう方言というのも少なから

ず出てくると思われる。

そこで本発表では、第一に、従来の方言学の研究成果、特に方言の地理的分布が分かる方言地図を用いて、どのような方言が被災地にあり、消滅の危機に瀕しているのかを確かめる。

そして、第二に、被災地の方言が仮に消滅すると方言学の分野にどのような影響を与えるかといった視点から、被災地以外の地域の方言分布と被災地の方言との関係を踏まえた分類を行い、消滅の危機にある被災地の方言の中でも、とりわけ方言学的見地から価値があると思われる語形の検討を行う。さらに、そういった方言学的見地から価値が見い出せる語形がどの地域に多いか、地域ごとに集計をとることで、特にどの地域の記述が早急に求められているかを見出す。

第三に、消滅の危機にある被災地の方言が、どのように影響を受け、今後どうなっていくのか、それを予測するとともにその変化に関わる要因を検討し、その要因の内、利用できる既存のデータを用いて危機にある方言の検証を行う。

I どのような方言が消滅の危機に瀕しているのか。

→被災地地図と方言地図との対比により消えていく方言を把握する。

II その方言の消滅は方言学にどのような影響を与えるのか。

→類型論や方言圏論の観点から影響を考える。

→どの地域に貴重な方言が多く存するか明らかにする。

III 今後、被災地の方言はどうなっていくのか。

→消滅・統合・拡散、あるいは共通語化などいかなる現象が予想されるか。

最後に、問題点 I～III を総括し、貴重な方言が多く分布するという意味での方言衰退の危機にある地域（問題点 I・II の結果より）と、方言に影響を与える言語外的要因の現状から方言衰退の危機にあると考えられる地域（問題点 III の結果より）とを対照することで、貴重な方言が衰退の危機に晒され、何らかの早急な対処が必要な地域を導き出す。

2 被災地域の方言分布

2.1 被災地域の方言分布の特定

2.1.1 方言分布資料

本節では、まずはじめに、被災地域を中心に、ことばの地域差が分かる、これまでの方言地理学の成果にどのようなものがあるかを振り返る。

- ① 佐藤喜代治(1966)「岩手県三陸地方北部の言語調査報告」『日本文化研究所報告別巻』4号
- ② 佐藤喜代治・加藤正信(1972)「三陸地方南部の言語調査報告」『日本文化研究所報告別巻』8・9号
- ③ 小林隆・篠崎晃一「消滅する方言語彙の緊急調査研究」

(小林隆・篠崎晃一(2003)『消滅の危機に瀕する全国方言語彙資料』として一部既刊)

研究目的：日本語における消滅の危機に瀕する方言語彙を、全国にわたる方言地理学的な分布調査によって記録する。

調査地点：全国約 3200 市町村中 2000 市町村

④ 小林好日氏東北通信調査(1940)資料

(小林好日(1944)『東北の方言』他で一部公表)

調査目的：言語地理学的手法と文献国語学的研究によって日本語の歴史を解明することと東北地方における伝統的方言の分布把握にあったと考えられる。

調査地点：2000 地点

⑤ 小林隆編(2003)『宮城県石巻市方言の研究』

⑥ 国立国語研究所『日本言語地図』(LAJ) (詳細は後述)

⑦ 国立国語研究所『方言文法全国地図』(GAJ) (詳細は後述)

⑧ 多賀城市史編纂委員会(1984)『多賀城市史 第3巻 民族・文学』

⑨ 国語学研究室 2007 年度南三陸地方調査資料 (本書掲載)

これら、被災地域と関係のある資料の中から、本発表で検討材料としたのは、『日本言語地図』(“Linguistic Atlas of Japan”、以降 LAJ と略する)と『方言文法全国地図』(“Grammar Atlas of Japanese Dialects”、以降 GAJ と略する)である。これは、全国の分布を視野に入れて考えることで、問題Ⅱの方言学的影響の推定に際して、より多様な視点で被災地域の方言の位置づけの検討を行うことができるためである。

2.1.2 日本言語地図と方言文法全国地図について

<日本言語地図 (LAJ) >

『日本言語地図』は、全国各地の方言でどのような語形や発音がどこに現れるかを項目ごとに地図で表示したものであり、日本全国の方言の地理的分布を一望できる資料である。調査地点は全国 2400 地点に及び、各地でその土地生え抜きの話者が被調査者として選ばれている。

<方言文法全国地図 (GAJ) >

『方言文法全国地図』は、とりわけ文法事象を扱った、日本全国の方言の地理的分布を一望できる資料である。調査地点は 807 地点に及び、各地でその土地生え抜きの話者が被調査者として選ばれている。

2.1.3 被災した LAJ、GAJ の調査地点

まずは、津波の浸水地域及び原発の警戒区域の範囲を LAJ 及び GAJ に重ね、それぞれの分布地図の調査地点で、津波及び福島第一原子力発電所事故 (以降、原発と略する) の影響を受けている

地点を割り出した。それが図 1a、図 1b である。1～23 までの数字が付された緑の地点は津波及び原発の影響を受けている LAJ の調査地点で、A～P までのアルファベットが付された赤丸の地点は GAJ の調査地点を示している。



図 1a. LAJ・GAJ の被災調査地点（北東北）

地点名	LAJ地点番号	地点名	GAJ地点番号
1 階上町道仏	3716.27	A 八戸市白金	370618
2 洋野町種市町	3717.90	B 九戸郡種市町	371648
3 洋野町横手	3716.58	C 下閉伊郡田野畑村	374746
4 岩泉町茂師	3746.09	D 宮古市愛宕	375718
5 宮古市田老	3757.59	E 下閉伊郡山田町	377719
6 宮古市第17地割	3767.18	F 釜石市松原町	378745
7 大槌町桜木町	3777.86	G 気仙沼市東八幡前	470643
8 大船渡市三陸町	3797.32		
9 陸前高田市高田町	3796.95		
10 気仙沼市内の脇町	4706.53		

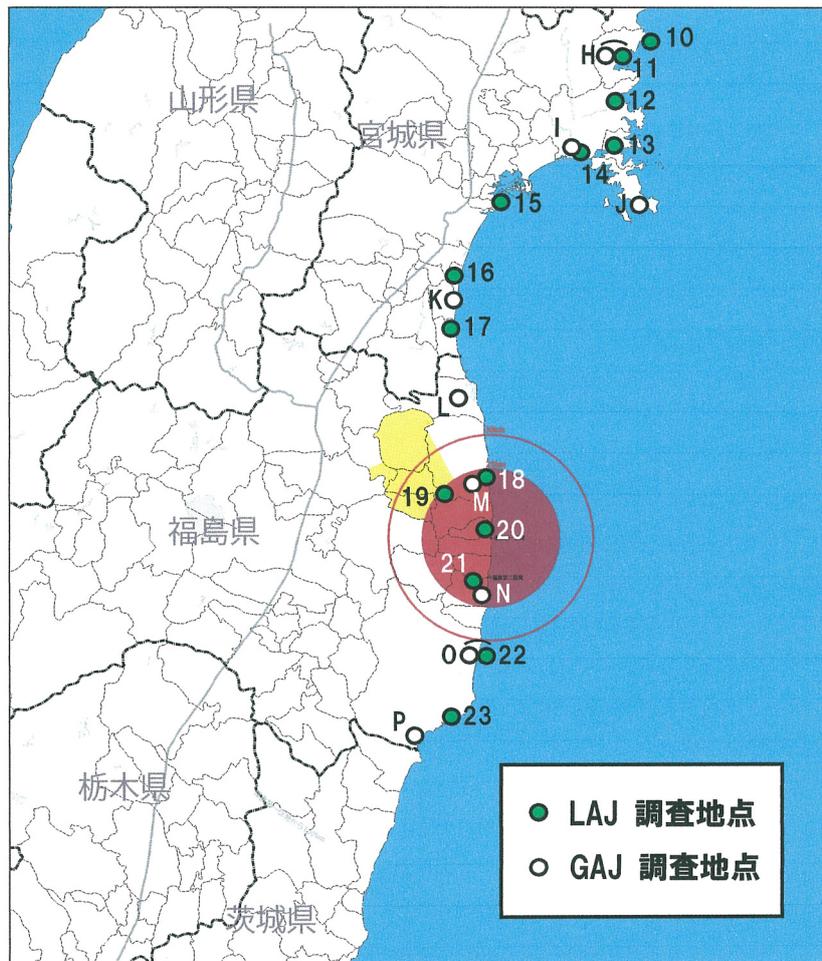


図 1b. LAJ・GAJの被災調査地点（南東北）

地点名	LAJ地点番号	地点名	GAJ地点番号
11 南三陸町歌津馬場	4716.72	H 本吉郡志津川町	471598
12 石巻市長面	4725.68	I 石巻市新中里	473532
13 女川町鷺の神浜	4735.37	J 牡鹿郡牡鹿町	474620
14 石巻市門脇町	4735.42	K 亶理郡亶理町	475376
15 七ヶ浜町松ヶ浜町	4744.32	L 相馬市北町	477326
16 岩沼市押分	4753.36	M 相馬郡小高町	478369
17 亶理町荒浜	4753.76	N 双葉郡檜葉町	570430
18 南相馬市原町区上太田	4784.41	O いわき市久之浜	571410
19 浪江町昼曾根字昼曾根	4783.74	P いわき市植田町	572351
20 双葉郡双葉町新山	4794.30		
21 檜葉町上繁岡	5703.19		
22 いわき市久之浜	5714.10		
23 いわき市小名浜下神白	5723.36		

2.1.4 被災地点の方言の特徴

本節では、前節で洗い出した被災地点にどのような方言が存するのか、それぞれの地点で話されている方言はどのように異なるものなのか、ここでは一例として、GAJの幾つかの質問項目についての結果を概観する。

表1. 被災地点の分布語形の特徴

地点番号	市町村名	GAJ第321図 親しい友達にむかって、 「今日は寒いな」と言うとき、 「寒いな」ところを どのように言いますか。	GAJ第323図 この土地の目上の人にむかって、 ひじょうにいいねいと言うときは どうですか。	GAJ第327図 近所の知り合いの人が 珍しい本を見せてくれました。 そこで、その人にむかって、 ややていいねいに 「これは珍しい本ですわね」と言うとき、 「珍しい本ですわね」のころを どのように言いますか。	GAJ第329図 この土地の目上の人にむかって、 ひじょうにいいねいと言うときは どうですか。	GAJ第349図 朝、近所の目上の人に 道で出会ったとき、 どんなあいさつをしますか。 ふつう良く使う言い方を 教えてください。
370681	八戸市白金1丁目	サムエナ	サムエスナ	メヅラスホンデスナー メヅラスホンデスナー	メヅラスホンデスナー	マエリアリガトガス
371648	九戸郡種市町	シハレルナー	シハレルナッス	メヅラシーホンダナス	メヅラシーホンデスコト	オハヨーゴザンス
374746	下閉伊郡田野畑村	サブエガナンシ	サブゴザンス ナンシ	メヅラシーホンダナンシ	メヅラシーホンダナンシ	オハヨーゴザイマス オハヤゴザンス
376718	宮古市愛宕1丁目	サンビーナー	サンビゴゼンシ	メチラシーホンデゴゼンシ	メチラシーホンデゴゼンシ	オハヤゴゼンシ
377719	下閉伊郡山田町	サビーナー	サムーゴアンス	メヅラシーホンデゴザンスナー	メヅラシーホンデゴザンスナー	オハヨーゴザンス
378745	釜石市松原町	サミーナー	サムイ ナンス	メヅラシーホンダナー	メヅラシーホンダナンシ	オハヨーゴザンス
470643	気仙沼市東八幡前	サムエナー サムイ	サムイネエアス	メヅラシーホンダゴトアー	メヅラシーホンダネアエシ	オハヨーゴザラス
471598	本吉郡志津川町	サンメーナー サンメーゴダー	サンメーネス	メヅラスーホンダゴタ	メヅラスーホンデゴザリスネ	オハヨーゴザリス
473532	石巻市新中里	サムエナー	サムエネ	メヅラシーホンダナー	メヅラシーホンデスネー	オハヨーゴザリマス
474821	牡鹿郡牡鹿町	サムイナン	サムイネン	メヅラシーホンダナー	メヅラシーホンデスネー メヅラシーホンダネー メヅラシーホンダネー	オハヨーガス
475376	亘理郡亘理町	サムエナエ	サムエナー	メヅラシーホンダネ	メヅラシーホンダネヤ	オハヨー オハヨーゴザエマス
477326	相馬市北町	サムイナ	サムイゴトネ	メヅラスーホンダネ	メヅラスーホンデスネ	オハヨーゴザエマス
478369	相馬郡小高町	サムイナ	サムイネ	メヅラスーホンダナ	メヅラスーホンダナス	オハヨーセンセー
570430	双葉郡楢葉町	サムイナ	サムイナエ	メヅラシーホンダナエ	メヅラシーホンデスネ	オハヨーゴザエマス
571410	いわき市久の浜町	サムイナ	サムイネ	メヅラシーホンダネ	メヅラシーホンデスネ	オハヨーゴザエマス
572351	いわき市植田町	サムイデスネ	サムイナエ	メヅラシーホンダネ	メヅラシーホンデスネ	オハヨーゴザエマス

表1は、GAJのいくつかの項目について、それぞれの地点の解答を横断的に示したものである。例えば、323図、329図、349図の結果を見てみると、「寒いですね」「本ですね」などの、丁寧に答える時の敬語形式の地域差が窺える。共通語では「デス」「ゴザイマス」にあたるような敬語形式が、「ガス」「ゴザンス」「ゴザリス」「ゴザリマス」となっていることから分かるように、被災地点それぞれに、地域に根差した言い回しがあることが分かる。

ただし、この結果を以て、即これらの言い回しが消滅の危機に瀕しているとは言えない。なぜなら、例えば志津川町で見られる「オハヨーゴザリス」という言い回しは、宮城県内陸部の築館町でも「オハヨーゴザリス」と回答されていることから分かるように、被災地点以外の地域で、同じような言い回しが行われている可能性が存する。

一方、釜石市で回答された「オハヨーゴザンス」などは、地域を隔てたはるか遠く、宮崎県西都市でも、同じ形式が回答されている。これは「ゴザイマス」という形の前身と思われる表現「ゴザンス」が、はるか地域を隔てて、北の東北、南の九州に、文化の中心地であった京都から広まったものとして対応するように見られるものと推定することができ、その意味で、方言の分布から日本語の歴史を推定する補強材料となる、貴重な方言形の分布と認められることになる。

従って、被災地点の方言の、方言学的な価値を見定めるには、隣接する他地域や、ひいては全国の分布を視野に入れて考える必要があるということになる。

次節では、被災地の方言が仮に消滅すると方言学の分野にどのような影響を与えるかといった視点から、被災地以外の地域の方言分布と被災地の方言との関係を踏まえた分類を行い、消滅の危機にある被災地の方言の中でも、とりわけ方言学的見地からみて貴重な方言の検討を行う。

2.2 分布から見た被災地方言の分類

被災地域に分布する語が、方言学的見地から見て貴重かどうか判断するためには、前節で述べたように、その方言と類似の方言が、全国的に見てどこにどれくらい分布するかということが関わってくる。例えば、全国的に見ても、被災地にしかない語形だとすれば、それはきわめて貴重なものと判断できる。さらに、近畿地方など、かつての文化の中心地を挟んで、九州や沖縄などに、類似した語形が見られれば、それは、中央から時間をかけて広がった古形の残存とも推定することができる分布と認められ、その意味で、被災地の該当方言が残っていることが、方言学にとってきわめて意義があることと認められる。

そういった、分布の解釈の異なりに関わる分布様相ごとに、分類を作ると以下のようなになる。

被災地域に分布する語形が

⇒①被災地域に特有の語形。

A. 被災地域内にのみ存在する語。

=①A

B. 被災地域内とその近辺に少数存在する語。

=①B

⇒②被災地域に特有で、離れた他地域に同系統の語が存在する。

- A. 他地域が東北地方の日本海側の場合 =②A
- B. 他地域が東北地方以外の場合 =②B
- C. 他地域が東北地方の日本海側、及び東北地方以外の場合 =②C

では、具体的に、それぞれの分類にどのような方言が分類され、それはどのような分布解釈の可能性などを見出せるものなのか、次に紹介する。

●方言地図具体例の紹介

①A に分類される方言地図

【例】LAJ 207 図 おうし／DO

当該語形の見られる石巻市門脇町周辺では OTOKOBEKO、OTOKOUZI など異なる語形が主に分布し、その中で唯一、石巻市門脇町で DO が回答される。この DO という形式は、全国的に見てもこの地点にしかなく、特徴的な語形（孤例）と言える。

①B に分類される方言地図

【例】LAJ 21 図 あらい（粗い）／USUI

粗いの語形の中で、津波の浸水地域には 1 つの特徴的な語形がある。宮城県南三陸町、宮城県東松島市に分布する USUI である。この語形は近隣地域を見ても 4 地点しかなく、似た語形といったものも全くない。また、周辺にも ARAI や ARE などの ARAI 系しかない。このことから、この語形の減少、衰退が予想される為、①B に分類される。

【例】LAJ198 図 もり（森）／KAKOI・EGUNE

森の語形の中で、特徴的な語形は 2 つある。福島県南相馬市の KAKOI、そして福島県浪江町の EGUNE である。そのどちらの地域も福島第一原発の計画的避難区域に含まれており、消滅の危機にある。南相馬市と浪江町は近接しているので、周囲にある語形は同一であり、(O)MIYA(NO)YAMA、MORI がそれにあたる。南相馬市では、KAKOI、(O)MIYA(NO)YAMA が併用されている。KAKOI は福島県浜通りの北にしか分布しておらず、南相馬市の KAKOI の消滅で数の減少が起こると判断し、①B に分類される。また森をヤマとするのは全国に点在している語形である。そして浪江町では、3 つの語形が併用されている。EGUNE、KAKOI、MORI である。EGUNE は宮城県の北方にも存在するが、やはり KAKOI と同様に数の減少、ひいては、語形の衰退が見込まれる語形であるため、①B に分類される。

②A に分類される方言地図

【例】LAJ245 図 きのこ（茸・蕈）／MODASI

MODASI は宮城県の沿岸部南部に 1 例と山形県沿岸部北部に 2 例を見ることができる。これ

らはそれぞれ周囲の語形から独立しているが、この場合、この分布の形が保持されることで、航路による方言の伝播解釈の可能性が検討できる。このように東北地方内に分断された形で分布するものが②Aに分類される。

②Bに分類される方言地図

【例】LAJ 87 図 せき（咳）をする—前部分—/IKI系

咳をするの語形の中で、津波の浸水地域には2つの特徴的な語形がある。岩手県洋野町のIKIGA、同じく岩手県洋野町のIGIの2つである。この2つは両方ともIKI系の語形で、周りに多く分布するSEGIやSYEGIなどのSEKI系とは異なったものである。IKI系の語形は九州に多く見ることができるが、全く同じ語形はIKIGAは宮崎県に1つ、IKIは鹿児島県の島に1つだけしかなく、岩手県洋野町にあるこの語形が消えた場合、方言圏論を考える際に影響が出るように思われる。したがって、この2つの語形が②Bに分類される。

②Cに分類される方言地図

【例】LAJ215 図 とさか（鶏冠）/YAMA (KO)

YAMA (KO) は、東北地方内では大きく分けて岩手県・秋田県・宮城県から山形県にかけて地域の3点での分布を確認できる一方、西日本に主に香川県全域での局地的分布が認められる。このような分布は、②A・②Bとは異なった解釈が考えられるので、②Cに分類される。

これらの分類の観点による地図の一覧は別表（別表A：LAJ、別表B：GAJ）に示す。また、分類別による特徴的な語形の集計は、以下の表2のようになる。

表2.LAJ、GAJにおける、特徴的な語形の分布の分類別の集計結果

	①A	①B	②A	②B	②C	総計
LAJ	45 36.0%	24 19.2%	20 16.0%	19 15.2%	17 13.6%	125 100.0%
GAJ	98 27.7%	119 33.6%	6 1.7%	113 31.9%	18 5.1%	354 100.0%
LAJ & GAJ	143 29.9%	143 29.9%	26 5.4%	132 27.6%	35 7.3%	479 100.0%

①A、①B、②Bが、LAJとGAJを合わせた場合、同数程度あるが、この中で特に重く見なければならぬのは、被災地域にのみ存在する語形の分布を示す①Aの総数が、他の分類に比しても、ほぼ同率で1位だという点である。これは、被災地域のことばが、日本全国の方言を見渡しても独特である特徴を多く持つということを示唆するものであり、言語の多様性の記録・保存という意味でも、被災地の方言の記述が緊急を要する所以と言える。

また、②Bなどが、それに次いで多いことも注目し得る。これは、方言学的見地からの考察を行う上で重要な証拠となる、例えば、圏論的解釈の可能性を促すような語形の分布が、数多くその地に存するという点も意味している。

2.3 浸水・原発被災地域における特徴的な語形の分布分析

2.3.1 浸水・原発被災地域における特徴的な語形の分布分析（LAJ）

まずは LAJ についての分析結果を示す。浸水・原発被災地域における特徴的な語形の数を地域・地点ごとに集計すると以下ようになる。

表3. 被災地域の特徴的語形数集計（地点別）

地名	①A	①B	②A	②B	②C	総計
青森県	4	1	1	1	1	8
階上町道仏	4	1	1	1	1	8
岩手県	21	7	11	7	8	54
洋野町種市町	8	1	3	2	3	17
宮古市第17地割	6		5	3	2	16
大槌町桜木町	2	3		1		6
大船渡市三陸町	2	1		1	2	6
陸前高田市高田町	2	2			1	5
岩泉町茂師			2			2
宮古市田老	1		1			2
宮城県	12	10	5	9	7	43
気仙沼市内の脇町	1	4	2		2	9
亘理町荒浜	2	1	2	1	1	7
七ヶ浜町松ヶ浜町	3	2		1	1	7
石巻市門脇町	3				2	5
石巻市長面		2		2	1	5
岩沼市押分	2			2		4
南三陸町歌津馬場		1		2		3
女川町鷺の神浜	1		1	1		3
福島県	8	6	3	2	1	20
南相馬市原町区上太田	3	4		1		8
いわき市小名浜下神白	3	1	1	1		6
双葉郡檜葉町上繁岡	1				1	2
双葉郡双葉町新山			2			2
双葉郡浪江町屋曾根	1	1				2
計	45	24	20	19	17	125

表3'. 被災地域の特徴的語形数集計（市町村別）

市町村名	①A	①B	②A	②B	②C	総計
宮古市	7		6	3	2	18
洋野町	8	1	3	2	3	17
石巻市	3	2		2	3	10
気仙沼市	1	4	2		2	9
南相馬市	3	4		1		8
階上町	4	1	1	1	1	8
亘理町	2	1	2	1	1	7
七ヶ浜町	3	2		1	1	7
大槌町	2	3		1		6
いわき市	3	1	1	1		6
大船渡市	2	1		1	2	6
陸前高田市	2	2			1	5
岩沼市	2			2		4
南三陸町		1		2		3
女川町	1		1	1		3
浪江町	1	1				2
双葉町			2			2
檜葉町	1				1	2
岩泉町			2			2

表3より、各県の対象語形の総数は、

- 青森県 8 語形（6%：特徴的語形総数に占める各県の被災特徴的語形の割合）
- 岩手県 54 語形（44%：特徴的語形総数に占める各県の被災特徴的語形の割合）
- 宮城県 43 語形（33%：特徴的語形総数に占める各県の被災特徴的語形の割合）
- 福島県 20 語形（16%：特徴的語形総数に占める各県の被災特徴的語形の割合）

となっており、とくに、宮城県と岩手県の調査地点に多くの特徴的な語形、方言学的に貴重な語形が存在していることが分かった。また、市町村別の集計では、宮古市と洋野町がそれぞれ、18 語形、17 語形と、他市町村に比べてかなり多い。

ところで、特徴的な語形の多い宮城県、岩手県の 2 県でもその散らばり具合と言う点では差があるということが、市町村別の集計（表3右）に注目した時にわかる。岩手県は、宮古市、洋野町が 18 語形、17 語形であり、同県内のそれに次ぐ数を示す、大槌町の 6 語形に比して倍以上が 2 地点それぞれに見られる。一方、宮城県は、特徴的な語形の総数が 43 語形と、岩手県に次ぐほど多いが、一番多く特徴的な語形が見られる石巻市でも 10 語形ほどであり、以降、気仙沼市の 9 語形、

亘理町・七ヶ浜町の 7 語形と、散らばり方が平均的である。

これは、宮城県の特徴的な語形が、県内の各市町村に、比較的均等に散らばっているのに対し、岩手県では、特定の地域に特徴的な語形が偏って分布すると読み取れるということである。これは、両県の特徴的な語形の分布の仕方の違いと認めてよいだろう。

さらに、より細かい単位として、地点ごとに数の多い順に並べて分析を行うと、以下のようになる。

1. (岩手県)洋野町種市町 . . . 17 語形
2. (岩手県)宮古市第 17 地割 . . . 16 語形
3. (宮城県)気仙沼市内の脇町 . . . 9 語形
4. (青森県)階上町道仏
(福島県)南相馬市原町区上太田 . . . 8 語形
5. (宮城県)七ヶ浜町松ヶ浜町
(宮城県)亘理町荒浜 . . . 7 語形
6. (岩手県)大槌町桜木町
(岩手県)大船渡市三陸町
(福島県)いわき市小名浜下神白 . . . 6 語形
7. (岩手県)陸前高田市高田町
(宮城県)石巻市門脇町
(宮城県)石巻市飯野 . . . 5 語形
8. (宮城県)岩沼市押分 . . . 4 語形
9. (宮城県)女川町鷺の神浜
(宮城県)南三陸町歌津馬場 . . . 3 語形
10. (岩手県)岩泉町茂師
(岩手県)宮古市田老
(福島県)双葉郡檜葉町上繁岡
(福島県)双葉郡双葉町新山
(福島県)双葉郡浪江町昼曾根 . . . 2 語形

先に観察された宮古市の 18 地点の内訳でも、集計を見て分かる通り、宮古市第 17 地割に 16 語形と極端な偏りがみられる。つまり、三陸地方沿岸部は、特徴的な語形が狭い地域に集中して分布することがあるということであり、保全のための記述を行う上では、そのような狭い地域に分布する特徴的な語形を逃さないためにも、細やかな地点設定の調査を考えなければならないということを示唆している。

2.3.2 浸水・原発被災地域における特徴的な語形の分布分析（GAJ）

次に、GAJ についての分類別の集計結果を表 4 に示す。

表 4. GAJ における、県別、地点別の被災特徴的語形集計

地点別	地名	①A	①B	②A	②B	②C	総計
	1	気仙沼市東八幡前	29	16	1	16	2
2	宮古市愛宕1丁目	9	9		15	2	35
3	本吉郡志津川町	9	16		8		33
4	亶理郡亶理町	4	10	2	12	2	30
	下閉伊郡山田町	6	3	1	16	4	30
5	釜石市松原町	15	7	2	4		28
	下閉伊郡田野畑村	12	4		10	2	28
6	石巻市新中里	4	11		10	1	26
7	九戸郡種市町		11		7	2	20
8	牡鹿郡牡鹿町	3	8		5	2	18
9	相馬郡小高町	4	6		3		13
10	八戸市白金1丁目	1	7		3		11
11	双葉郡檜葉町		5		2		7
12	相馬市北町	2	2			1	5
13	いわき市植田町		2		2		4
14	いわき市久ノ浜町		2				2
	計	98	119	6	113	18	354
県別	県名	①A	①B	②A	②B	②C	総計
	青森県	1	7		3		11
	岩手県	42	34	3	52	10	141
	宮城県	49	61	3	51	7	171
	福島県	6	17		7	1	31

まず、GAJ の集計結果では特徴的な語形の総数が 354 と、LAJ に比べてかなり多いことが注目される。これは、GAJ の調査地点数が、LAJ に比べるとやや少ないことがあって、その分、地域的まとまりがあるものでも、特徴的な例として取り上げることにつながったことなどが関係していると思われる。

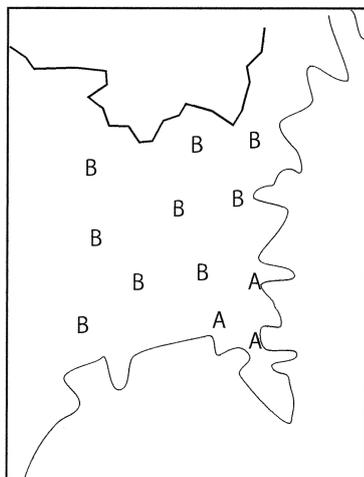


図 2. 調査地点設定が密な場合

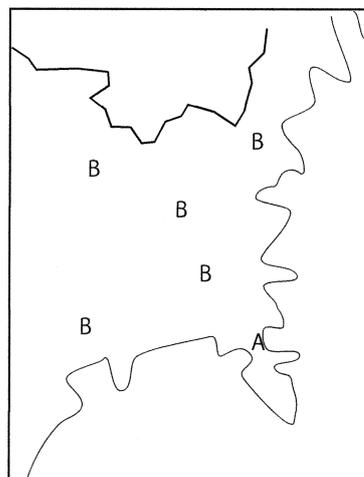


図 3. 調査地点設定が疎な場合

例えば、ある調査項目の「A」という語形の分布について、それが特徴的かどうか判断する過程を、調査地点設定が密な場合と疎な場合で比べてみる。図2が密な場合、図3が疎な場合である。

図2の調査地点設定が密な場合では、「A」という語形は数地点で捉えられるので、数地点の分布のまとまりを持った語形として捉えられ、特徴的な例と認めるには至らない。だが、図3のように、調査地点設定が少なくなると、同じ「A」の語形の分布が孤例として浮き立つことになる。すると、周辺地域まで含めてまとまった分布を持っている可能性があるにも関わらず、特徴的な孤例としてカウントされることになるのである。このような調査地点設定の多寡が、調査地点の少ないGAJにおいて、特徴的な語形の総数を多くせしめた理由の一つとして考えられる。

次に県別、地点別などの集計結果の分析に移る。各県の対象語形の総数は、

- 青森県 11 語形 (3% : 特徴的語形総数に占める各県の被災特徴的語形の割合)
- 岩手県 141 語形 (40% : 特徴的語形総数に占める各県の被災特徴的語形の割合)
- 宮城県 171 語形 (48% : 特徴的語形総数に占める各県の被災特徴的語形の割合)
- 福島県 31 語形 (9% : 特徴的語形総数に占める各県の被災特徴的語形の割合)

となっており、岩手県、宮城県の順が逆転したものの、全体の比率はほぼLAJと同じと捉えてよいだろう。

また、地点別の集計結果を見ると、LAJの結果に比して、見るべき点がある。正確に言えば、GAJとLAJで調査地点が違うので、その点留意すべきかもしれないが、市町村などのおおまかな「地域」という基準で比べた場合、LAJの結果に比して、GAJの結果では上位にくる地域の順番などに違いがあることが分かる。

特徴的な語形が最も多くある地域は気仙沼(表4:64語形)で、2位の2倍近くの値を示している。ただしこの、GAJの気仙沼の集計数の解釈には一考の余地がある。それは、気仙沼市の語形の値が、64語形と、他地点に比べて際立って多い数値を示していることに起因する。全体の平均が22.1語形であることを考えると、この数値は平均値の3倍以上ときわめて多いものであり、やや極端である。この数値は、それだけ気仙沼市のことばの文法面での特殊性を表しているという可能性も考えられる一方、調査対象に当たった話者が、たまたま特徴的な話し方を志向する話者だった、などという可能性も捨てきれない。その意味で、言語地図のみならず、他の資料での確認を要することだろう。

そういった点にも注意を払いながら、地点ごとの集計結果の順位に注目した時、宮古市が35語形と上位にあることが注目される。というのも、宮古市は、LAJの集計結果を分析した表2でも上位に来ている地域であり、このGAJの集計結果と併せて考えると、LAJが調査対象とした語彙などの面でも、GAJが調査対象とした文法などの面でも、特徴的な語形が多く分布する地点として認められるからである。さらにその意味では、種市町も、LAJ(洋野町種市町)で15語形(2位)、GAJで20語形と、語彙面、文法面双方で、少なくない数の特徴的な語形が分布する地域と認めら

れる。つまり、方言学的な見地からは、このような地域（宮古市・種市町など）の記述がとりわけ強く求められるものと考えられる。

また、GAJの結果とLAJの結果を突き合わせることで、改めて確認されることもある。緊急に保全を要する地域を判断するに当たっては、単に語彙の面からだけでなく、その地域のことばの様々な側面（語彙・文法・音韻・アクセント...）を視野に入れて、特徴的な性格が多く存するかを把握したうえで、その地点の方言の、方言学的見地での記述の必要性を判断しなければならないということである。

たとえば、GAJの本吉郡志津川町（現 本吉郡南三陸町志津川）と、LAJの南三陸町歌津馬場は、現在では同じ南三陸町に属する近隣地域である。そのような関係にありながら、主に語彙を調査対象にしたLAJでは、特徴的な語形の分布が3語形であるのに対し、文法を調査対象にしたGAJでは33語形とかなりの開きを見せている。つまり語彙面からだけだと、特徴的な語形が多く分布する地域と認めたいが、文法面に目を向ければ、保全の必要性がある地域と判断されるということである。

このように、方言学的考察を視野に入れたときの、被災地域の特徴的な方言の記述・保全の必要性は、多様な側面からの検討を行った上で、それを判断する必要があるということである。

2.4 問題点ⅠとⅡのまとめ

以上の考察結果を踏まえ、被災地域のことばについて、方言学的見地から見た記述の意義や、特徴的な語形が分布する地域の在り方を振り返り、まとめとする。

2.2で、LAJとGAJ、それぞれの地図を対象にして行った、分布解釈の違いに関わる分布の仕方ごとに行った分類では、被災地域には、①A：被災地域内にもみ存在する語や、①B：被災地域内とその周辺に少数存在するが、被災で数が減少する語、②B：被災地域に特有で、離れた他地域（東北以外）に存在する語、に分類されるものが、特に多く存在することが分かった。総数では、①A、①B、②Bの分類が同数程度の多さを示すが、特に重く見なければならないのは、被災地域にもみ存在する語形の分布を示す①Aの分類が、ほぼ同数で1位だということである。これは、被災地域のことばが、日本全国の方言を見渡しても独特と言える特徴を多く持つということを示唆するものであり、被災地の方言の保全が緊急を要する所以と言える。

また、②Bの数が多きことも、被災地域のことばの方言学的価値を測るうえで注目に値する。これは、方言学的な観点からの考察を行う上で重要な証拠となる、例えば、圏論的解釈の可能性を促すような語形の分布が、数多くその地に存するという意味している。

そして、被災地域のことばの中で、特にどの地域に特徴的な語形が分布するかを洗い出すと(2.3)、県別にみると岩手県と宮城県に特徴的な語形が多いことがわかった。これらの地域の表現の喪失は、方言学に影響を与える可能性が高い。例えば、岩手県などは、海岸部周辺に特徴的な表現が点在する。この特徴は、地域の環境的特徴と突き合わせて、その背景を考えることができる。というのも、この三陸地方沿岸部地域と内陸部の間の一帯は、北上高地が存在し、内陸の主要街道との交通が阻

まれている。そのため、海岸部の主要都市それぞれは、南北の距離で近い位置にあるにも関わらず、遠野海道、釜石街道、宮古街道、野田街道などの、お互いにつながりを持たない東西の道で内陸部に移動し、内陸を南北につなぐ奥州街道を経由して、やっとそれぞれの都市への街道に至るという通行を余儀なくされていた。そういった、ことばを運ぶ人の流れを限定する不自由な交通という地域的事実が働いて、他地域に比較して、それぞれの海岸部の都市で独自の語彙体系を築いたということも読み取れる。例えば、このような交通事情と、方言分布形成の関係を探る考察の可能性を断たないためにも、なおさら強く保全が求められるべきだろう。

このように、分類別の集計の検討から被災地域のことばの方言学的価値が認められ、さらに、地点ごとの集計の検討から、特に重点的に記述を行うべき地域を見定め、今後早急に被災地域の方言の保全を図る必要があることが、今回の検討で確認された。

3 問題Ⅲについて

前節までの検討では、GAJ と LAJ それぞれを、被災地の範囲と照らし合わせ、その範囲に含まれる方言を危機にある方言と見なして集計し、その貴重さの種類による分類や、貴重な方言が多く分布する地域などを洗い出す試みを行ってきた。これらの検討は、言ってみれば、被災地の範囲に含まれる方言、すべてが等価の危機にあるものと見なしてきたわけである。

だが、現実には、今回の大震災で大きな被害を受けた地域もあれば、幸いにして、軽微な被害で済んだ地域もあり、また、半年ばかりで元の状態を回復した地域もあれば、今なお復興への道筋が見えず、大震災に起因する災害の渦中にある地域も存在する。それらを考慮に入ると、様々な状況に置かれている各地域の方言が、今回の大震災の影響によって、一括して同じような変化の局面にあるとは考え難い。

そこで、本節では、今後の各地の方言に予想される現象を見越し、必要に応じた対応を可能にするため、まず、今後起きうる変化の方向性を見極め、各地域の被害の大小や被害自体の継続性など、方言の変化に影響する言語外的な諸要因について、理論的に考察する (3.1)。

そして、それを踏まえ、大震災に関わる社会的影響の統計データの内、確定したいくつかのデータを参照して、当該地域の方言が危機にある地域を導出する (3.2)。

3.1 方言の変化に関わる言語外的な要因の理論的考察

本節では、まず被災地の方言が、震災による人の移動など、様々な社会的な動きの中でどのように変化すると考えられるか、予測される変化を考えるとともに、その変化に関わる諸要因を洗い出す考察を行う。

変化のあり方を考察する上では、まず、方言を話す話者が、どれほど、どんな状態にいるかが問題となってくる。先述のように、東日本大震災では、多くの犠牲者が出たばかりでなく、多くの被災者が他の地域へ一時的に避難したり、場合によっては生活拠点そのものを移す移住などの移動を始めている。そうして移動した先では、必ずしも自分の地域の方言が話されているとは限らず、そ

の点で、母方言を使う機会が減ることが容易に予想できる。例えば、関西方面などに避難したとすれば、関西弁が交わされる環境の中で、地元の方言を使うという機会は俄然減るだろう。しかし、避難した被災者は、避難先でこそ地元の方言を用いないかもしれないが、その後状況が良くなって地元に戻ってくることがあれば、再び方言を用いる状況を取り戻す可能性がある。そのため、話者が亡くなった場合と、避難・移住など移動している場合を大きく分けて考える必要がある。亡くなった場合は、その方言の話者の人数そのものが減ることにつながるのだから、その人数の多寡が方言の盛衰に影響を与える大きな要素の一つになる。

一方、移動を余儀なくされている場合でも、その在り方に着目する必要がある。なぜなら、移動中に話者が受ける影響は、移動先の環境によって、一様とは考えられないからである。そこで、移動先の環境を想定して考察すると、そこで起こる変化の可能性は二つ考えられる。一つは共通語化の促進、もう一つは似ている方言同士の交渉で起きる変化である。

共通語化の促進は、移動してきた側と移動者を受け入れる側の、使用する方言同士に大きな差異がある場合に起こると目される。というのも、お互いの使用する方言同士に大きな差異がある場合、コミュニケーションや、コミュニケーションを通じた人間関係の形成が、方言の使用によって阻害されてしまうことになる。そこで、それを避けるため、お互いに滞りなく意思疎通ができる共通語を使っていくことが予想される。そのようにして、移動してきた側は、自然共通語の使用へ傾いていくと予想される。

一方、似ている方言同士の交渉で起きる変化とは、移動してきた側と移動者を受け入れる側が似た方言の話者同士の場合である。この場合、特に意思疎通に不便がなく、お互いの方言を使っていくことが予想される。その際、共通語化の促進の場合と比べて、お互いの言葉が近しいがゆえ、語彙やアクセントなどが入り混じり、その側面が一方の特徴に統合したり、あるいは混合するなどといった変化が予測される。

つまり、移動してきた側と移動者を受け入れる側の意思疎通に用いられる言葉の似かよりに従って、移動者の方言が受ける影響というのが変わってくると考えられるのである。移動した先で日常用いられる言葉との差異が大きくなるほど、上述のような影響を与える可能性が高まるということである。

なお、いずれであれ、移動者の母方言の維持には影響を与える。共通語化では、少なくとも地元にいる時より母方言使用の機会が多くなることはないという意味で、衰退が促進されると見てよいだろう。似ている方言同士の交渉の場合も、母方言が、そのままの姿を維持して、地元にいる時より活発に用いられるということは考え難い。つまり、移動者の母方言は、いずれであれ移動の影響下にあり続ければ衰退の方向に向かい、大なり小なり衰退が促されるものと考えられる。

ただし、このような変化は、移動をすればすぐに起こるという訳ではない。どの程度の期間、そのような環境に置かれるかということも関わってくる。そこで、移動のあり方として、一時的な移動である避難か、長期間の移動である移住か、あるいは移動先への永住かなどの移動期間が、変化が起きる可能性を測る目安として考えられる。移動の期間が短ければ変化を促す要因の影響は弱く、

長ければ強くなるだろう。また、移動先の土地に永住する場合は、移住者の母方言が失われる可能性が極めて高いと考えなければならない。

なお、他の要因として、例えば、各地の建造物被害状況や原発事故による避難の状況のあり方など、列挙していけばいくつもの要因が考えられる。だが、ひたすら要因を列挙すればよいわけではない。なぜなら、方言に与える影響を測るための指標として考えると、建造物被害の深刻さなどは、それらが再建されるまでの期間として置き換えられ、結局は、話者が戻ってくるまでの期間に還元されるからである。つまり、突き詰めていくと、前述の、移動期間の長短という指標で、多くの他の要因を包括できるものとする。ここでは、大震災が方言に与える影響を正確に見極めるため、要因間の影響力が重複しないよう、このような要因間の関係にも配慮する必要がある。さらに、最終的に洗い出した要因をなるべくシンプルなものにするために、影響力が重複するような場合は、間接的な要因ではなく直接的なものを優先し、最小限の要因を拾い出す方針を取る。よって、ここでは先述の移動期間を主要因として採用する。

さて、ここまでは、個別の話者の視点から、起きうる変化の内実と、変化の起きる可能性を測る要因に考えを巡らせてきたが、移動者の方言自体の変化の大きさがどの程度のものかを推し量る指標として、これらの変化の過程を経る可能性がある個人がどれほどいるかということ、すなわち、それぞれの移動先への移動者の人数（転出数）というのが重要だと言える。

以上、考察によって導き出された要因を整理すると、以下のようになる。

A. 被害状況及び移動状況

A-1 話者の喪失状況

①死者・行方不明者数

A-2 話者の移動（転出）状況

②移動数（転出数）

③移動期間

④移動先との距離（＝方言の似かよ度）

②について、移動数を転出数と置き換えているのは、実際には、転出などの公的な届け出を出さずに各地へ移動している人も少なからずいることが想像できるが、現実に利用可能な各種統計調査結果を参照する限り、公的な機関が把握している移動者の数として、転出数が分析・考察に耐えうる信頼できるデータだと判断したためである。これらの要因を組み合わせ、それぞれについての状況を判断していくことで方言の危機の度合いを推し量ることができると思われる。さしあたり、これらの要因それぞれについて、便宜的に「多い／少ない」、「近い／遠い」などの単純化した2項対立で捉え、被災地の危機の度合いを導き出す図案を示すと、以下のようにつまえられる。

話者の喪失状況 (死者・行方不明者数)	話者の移動(転出)状況			危機の度合
	移動数(転出数)	移動先	移動期間	
少ない	少ない	近い	短期	↑ 低い ↓ 高い
			長期～永続的	
		遠い	短期	
			長期～永続的	
	多い	近い	短期	
			長期～永続的	
遠い	近い	短期		
		長期～永続的		
多い	少ない	近い	短期	
			長期～永続的	
		遠い	短期	
			長期～永続的	
	多い	近い	短期	
			長期～永続的	
遠い	近い	短期		
		長期～永続的		

図4. 被害状況及び移動状況から導かれる方言の危機の度合い

例えば、話者の喪失が多く、移動数も多く、移動先が遠く、移動期間が長期に渡ると見込まれるのは、これまでに明らかになった情勢・統計データなどを見ると、津波で甚大な被害を受けた宮城県の南三陸町などが考えられる(3.2.2.2 分析後述)。

このように洗い出した震災にまつわる状況的要因に加え、被災した個々人の話者の属性や、被災地自体の地域的特徴などが掛け合わされ、総合的に各地の方言の危機度が導出されるものと考えられる。被災した個々人の話者の属性や、被災地自体の地域的特徴などとしては、例えば、以下のようものが考えられる。

B. 被災者の特徴

- ①被災者の年齢
- ②被災者の職種

C. 被災地域の特徴

- ① 都市度
- ② 主要産業

3.2 話者移動データから見た危機方言—平成 23 年住民基本台帳人口移動報告の結果から—

3.2.1 全国の転出・転入の状況

本節では、前節で洗い出した諸要因のうち、平成 23 年の統計が確定した転出数に着目し、ケーススタディとして、そのデータを用いて各地の方言の危機の度合いを推測する。参照するデータは、平成 23 年住民基本台帳人口移動報告（以降、住基移動報告と略する）である。住基移動報告は、平成 24 年 1 月に公開され、その概要には、岩手県、宮城県及び福島県を中心とした東日本大震災の人口移動への影響が公表されている。

まず、全国の移動状況では、平成 23 年の都道府県間移動者数は 234 万人ほどに及び、平成 7 年以来 16 年ぶりに増加に転じているとある。さらに、都道府県別の転入・転出超過数を見ると、どの都道府県で、人の出入りが著しいかが分かる。

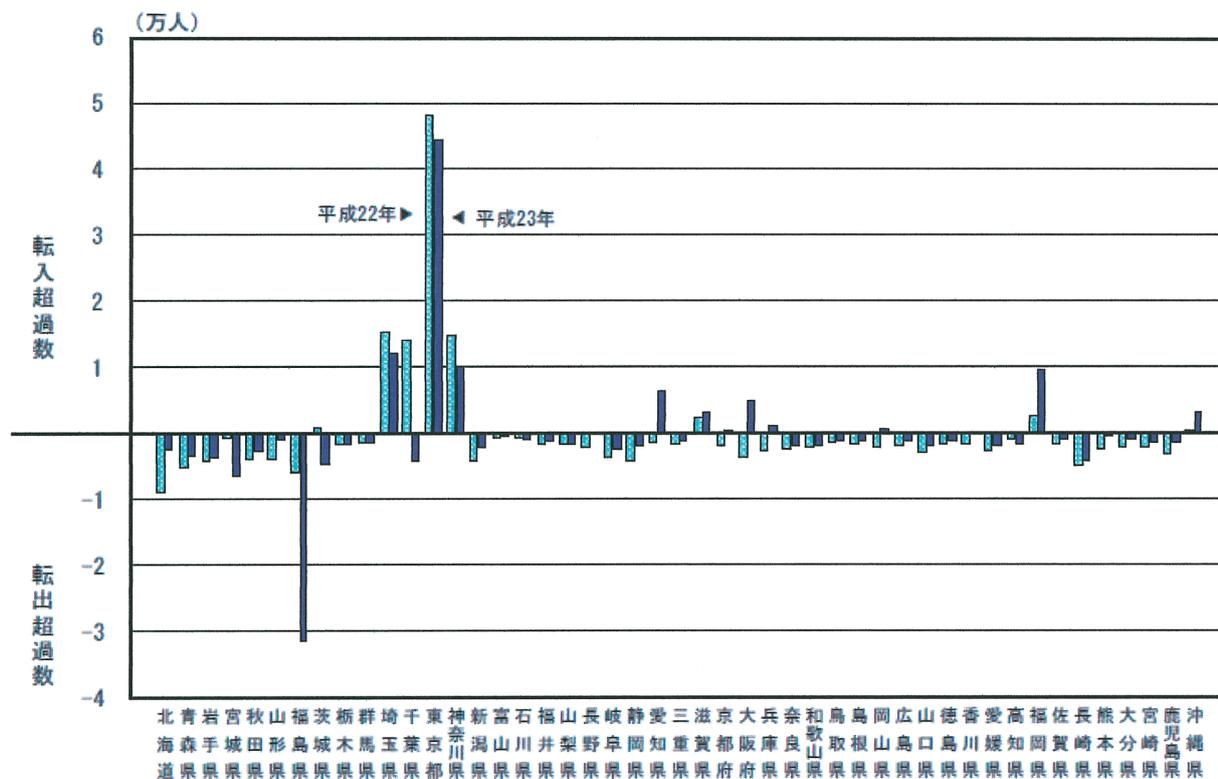


図5. 都道府県別転入・転出超過数（平成 22、平成 23 年）

(総務省統計局 2012 「住民基本台帳人口移動報告平成 23 年結果—全国結果と岩手県、宮城県及び福島県の人口移動の状況」、p.5)

平成 23 年における都道府県別の転入・転出超過数（図 5）をみると、転入超過となったのは 11 都府県あり、5 府県が前年の転出超過から転じている。特に、大阪府及び京都府は平成 7 年以来 16 年ぶり、岡山県は平成 9 年以来 14 年ぶりに転入超過、さらに、福岡県の転入超過数は前年に比べて 7046 人の大幅な増加とあり、この 1 年の動きとして、関西方面の大都市圏への人の入りが際立っていることがわかる。

一方、東京都、埼玉県及び神奈川県の入転超過数は、いずれも減少し、茨城県及び千葉県は前年の入転超過から出転超過に転じている。千葉県の出転超過は、昭和31年以来、実に55年ぶりである。関東地方も、被災地である茨城県・千葉県を中心に、人口減少傾向へと転じたり、人口増加率が減じたりと、人が離れていく傾向を見せている。

東北地方の被災地、特に大震災による被害の大きかった岩手県・宮城県・福島県3県に注目すると、特に宮城県・福島県で、出転超過が著しい（福島県：3万1381人、宮城県：6402人）。なお、岩手県では、他都道府県への出転超過数が減っているが、だからといって被災地からの移動がないわけではない。この内実については、後の3.2.2.1節で詳しく述べる。

ここでは図表等は割愛するが、出転数にだけ注目しても、福島県の平成23年の出転数は、5万3122人と前年に比べ2万1759人多く、対前年比増加率69.4%、出転数増加率において、統計開始以来最高の値を示している。この1年の人口流出がいかにか著しいものだったかが窺えよう。

次に、細やかな行政単位ではどのような動きが見られるのか、市町村単位の動きを参照する。

表5. 転入・転出超過数上位20市町村（平成22年、平成23年）

（総務省統計局2012「住民基本台帳人口移動報告平成23年結果—全国結果と岩手県、宮城県及び福島県の人口移動の状況」、p.14）

表5a. 転入超過数上位20市町村

		(人)		
		転入超過数の上位20市町村		
		平成23年	平成22年	対前年 増減数
1	(1) 東京都特別区部 (東京都)	35,435	33,098	2,337
2	(4) 福岡市 (福岡県)	11,129	5,389	5,740
3	(5) 札幌市 (北海道)	10,254	5,288	4,966
4	(2) 大阪市 (大阪府)	8,777	5,820	2,957
5	(28) 仙台市 (宮城県)	6,633	1,170	5,463
6	(3) さいたま市 (埼玉県)	5,239	5,693	-454
7	(10) 藤沢市 (神奈川県)	3,796	2,919	877
8	(16) 神戸市 (兵庫県)	2,774	2,158	616
9	(6) 川崎市 (神奈川県)	2,317	4,778	-2,461
10	(11) 川崎市 (埼玉県)	2,244	2,497	-253
11	(21) 広島市 (広島県)	1,999	1,415	584
12	(132) 新潟市 (新潟県)	1,743	280	1,463
13	(1516) 名古屋市 (愛知県)	1,679	-256	1,935
14	(14) 八王子市 (東京都)	1,560	2,308	-748
15	(23) 草津市 (滋賀県)	1,537	1,372	165
16	(118) 大和市 (神奈川県)	1,536	328	1,208
17	(1363) 盛岡市 (岩手県)	1,502	-179	1,681
18	(7) 横浜市 (神奈川県)	1,388	3,781	-2,393
19	(15) 流山市 (千葉県)	1,358	2,204	-846
20	(1725) 吹田市 (大阪府)	1,348	-1,366	2,714

注1) ()内は平成22年の順位。

注2) 東京都特別区部は1市として扱う。

注3) 転入・転出超過数の「-」は転出超過を表す。

表5b. 転出超過数上位 20 市町村

		(人)			
		転出超過数の上位20市町村			
			平成23年	平成22年	対前年 増減数
1	(838)	郡山市 (福島県)	-7,232	-54	-7,178
2	(3)	いわき市 (福島県)	-6,194	-1,130	-5,064
3	(71)	石巻市 (宮城県)	-5,459	-418	-5,041
4	(129)	福島市 (福島県)	-4,410	-325	-4,085
5	(346)	南相馬市 (福島県)	-3,523	-184	-3,339
6	(1)	市川市 (千葉県)	-3,160	-1,683	-1,477
7	(75)	気仙沼市 (宮城県)	-2,375	-402	-1,973
8	(1542)	浦安市 (千葉県)	-1,956	151	-2,107
9	(769)	南三陸町 (宮城県)	-1,628	-66	-1,562
10	(611)	山元町 (宮城県)	-1,481	-98	-1,383
11	(141)	多賀城市 (宮城県)	-1,463	-306	-1,157
12	(1585)	松戸市 (千葉県)	-1,457	246	-1,703
13	(441)	大槌町 (岩手県)	-1,299	-143	-1,156
14	(322)	東松島市 (宮城県)	-1,276	-194	-1,082
15	(8)	尾崎市 (兵庫県)	-1,202	-1,015	-187
16	(1373)	陸前高田市 (岩手県)	-1,184	19	-1,203
17	(57)	高槻市 (大阪府)	-1,152	-485	-667
18	(544)	浪江町 (福島県)	-1,140	-111	-1,029
19	(7)	呉市 (広島県)	-1,129	-1,035	-94
20	(1405)	富岡町 (福島県)	-1,086	28	-1,114

平成23年12月31日現在の全国1718市町村についてみると、転入超過となっているのは505市町村で、全体の29.4%となっている。転入超過数は、東京都特別区部が3万5435人と最も多く、次いで福岡県福岡市、北海道札幌市などとなっている。

一方、転出超過となっているのは1213市町村で、全体の70.6%を占めている。転出超過数は福島県郡山市が7232人と最も多く、次いで福島県いわき市、宮城県石巻市などとなっており、転出超過数の多い上位20市町村のうち、岩手県、宮城県及び福島県の3県が14市町を占めている。ただし、岩手県の転出超過市町村数は、宮城県、福島県に比べれば少ない(2市町)。このようなデータから、被災地でも、人の移動のあり方が一様ではないことも窺える。そこで、次節以降では、東北地方の岩手県・宮城県・福島県3県に焦点を当て、それぞれ転出・転入の状況を詳しく見ていく。

3.2.2 東北地方の被災3県内(岩手県・宮城県・福島県)の転出・転入の状況

平成23年における岩手県、宮城県及び福島県の転出超過数の合計は、4万1226人となり、前年に比べて3万680人の増加となっている。転出超過数が4万人を上回るのは昭和45年以来41年ぶりとなっている。転出超過数を県別にみると、前年に比べて、宮城県及び福島県は大幅な増加となり、岩手県のみ減少となっている。

次節以降では、特に詳しいデータのある岩手県、宮城県、福島県3県それぞれの移動の状況についてその特徴を見ていく。

3.2.2.1 岩手県の転出・転入の状況

平成23年における岩手県の転入・転出超過数をみると3443人の転出超過となり、前年に比べて、転出超過数は795人の減少となっている。それならば岩手県では大震災の被害を受けても土地を離れる人が少ないのかと言うとそうではない。それは表6で、県内移動者数が前年に比べて増えていることを見れば明らかである。

表6. 岩手県の転入者数、転出者数、転入・転出超過数及び県内移動者数（平成22年、平成23年）
（総務省統計局2012「住民基本台帳人口移動報告平成23年結果—全国結果と岩手県、宮城県及び福島県の人口移動の状況」、p.17）

区分	転入超過数 (-は転出超過)			他道府県からの転入者数				他道府県への転出者数				県内移動者数			
	平成23年	平成22年	対前年 増減数	平成23年	平成22年	対前年増減		平成23年	平成22年	対前年増減		平成23年	平成22年	対前年増減	
						実数	率(%)			実数	率(%)			実数	率(%)
	(人)														
総数	-3,443	-1,238	795	18,756	17,893	863	4.8	22,199	22,131	68	0.3	21,681	19,816	1,865	9.4
男	-1,376	-1,680	304	10,541	10,188	353	3.5	11,917	11,868	49	0.4	10,628	9,656	972	10.1
女	-2,067	-2,558	491	8,215	7,705	510	6.6	10,282	10,263	19	0.2	11,053	10,160	893	8.8

さらに細かい単位での動きを見るために、岩手県の市町村別転入・転出超過率を通して、県内の市町村別移動の動向を見てみよう（次頁図6）。

平成23年12月31日現在の岩手県の33市町村についてみると、転入超過となっているのは9市町村で、盛岡市、一関市など6市町が前年の転出超過から転入超過に転じている。

転出超過となっているのは大槌町、陸前高田市、釜石市、山田町など24市町村で、なかでも、陸前高田市は前年の転入超過（19人）から転出超過（1184人）に転じ、大槌町は転出超過数が前年に比べて1156人の大幅な増加となっている。一方、奥州市など13市町村では、前年に比べて転出超過数が減少している。

転出超過率をみると、最も高いのは大槌町の8.54%となり、次いで陸前高田市（5.11%）、山田町（4.07%）などとなっている。

ここまでのデータを振り返ると、岩手県では、県外への転出は減っているが、海岸部の被災地では著しい転出の動きが見られ、内陸の都市で転入増加の動きが見られる。つまり、津波の被害の大きかった市町村では人離れが進み、内陸の主要都市などに移り住み始める傾向が見られるということである。

年齢別に見た場合でも市町村の転入・転出超過率を年齢3区分別にみると、0～14歳の転出超過率が最も高いのは大槌町の13.17%で、前年に比べて、12.14ポイントの上昇となっている。次いで陸前高田市（7.25%）、山田町（5.29%）などとなっている。15～64歳の転出超過率が最も高いのは大槌町の9.07%で、次いで陸前高田市（6.03%）、山田町（4.52%）などとなっている。65歳

3.2.2.2 宮城県の転出・転入の状況

平成23年における転入・転出超過数をみると6402人の転出超過となり、前年に比べて、転出超過数は5846人の増加となっている。

年齢5歳階級別にみると、全ての区分が転出超過となり、なかでも、20～24歳の転出超過数は、前年に比べて1466人の大幅な増加となっている。これは、方言を継承しうる当地の若者が離れ、各地の方言の継承が一層難しい状況が訪れることを予想させる。

次に転出先だが、平成23年における他の都道府県への転出者数をみると5万4064人となっている。前年に比べて6150人(12.8%)の増加となり、統計開始以来3番目の増加率となっている。県内移動者数、他都道府県への転出者数、ともに岩手県に比べて多いのが特徴と言える。

表7. 宮城県の転入者数、転出者数、転入・転出超過数及び県内移動者数(平成22年、平成23年)
(総務省統計局2012「住民基本台帳人口移動報告平成23年結果—全国結果と岩手県、宮城県及び福島県の人口移動の状況」、p.24)

区分	転入超過数 (-は転出超過)			他都道府県からの転入者数				他都道府県への転出者数				県内移動者数			
	平成23年	平成22年	対前年 増減数	平成23年	平成22年	対前年増減		平成23年	平成22年	対前年増減		平成23年	平成22年	対前年増減	
						実数	率(%)			実数	率(%)			実数	率(%)
	(人)														
総数	-6,402	-556	-5,846	47,662	47,358	304	0.6	54,064	47,914	6,150	12.8	70,082	57,151	12,931	22.6
男	-2,220	-94	-2,126	27,493	27,045	448	1.7	29,713	27,139	2,574	9.5	34,024	28,150	5,874	20.9
女	-4,182	-462	-3,720	20,169	20,313	-144	-0.7	24,351	20,775	3,576	17.2	36,058	29,001	7,057	24.3

転出者数を転出先の都道府県別にみると、前年に比べて増加しているのは、岩手県(949人)、北海道(732人)、東京都(661人)などとなっている。隣県である岩手県への転出が1位であるものの、北海道・東京と、遠隔地への移動者の数が合わせて少なくない点も、前節で見た岩手県の移動状況に比べ、特徴的な傾向と言える。これはすなわち、移動先で、日常母方言を使う機会が減り、共通語を用いる環境に置かれる話者が多い可能性を示している。

次に県内の市町村別移動状況を見ていく。次頁図7は、宮城県の市町村別転入・転出超過率である。平成23年12月31日現在の宮城県の39市区町村についてみると、転入超過となっているのは15市区町村で、登米市、大崎市など8市町が前年の転出超過から転入超過に転じている。前年に比べて、転入超過数が増加しているのは、仙台市青葉区(3405人)、同太白区(2446人)など6区町村となっている。

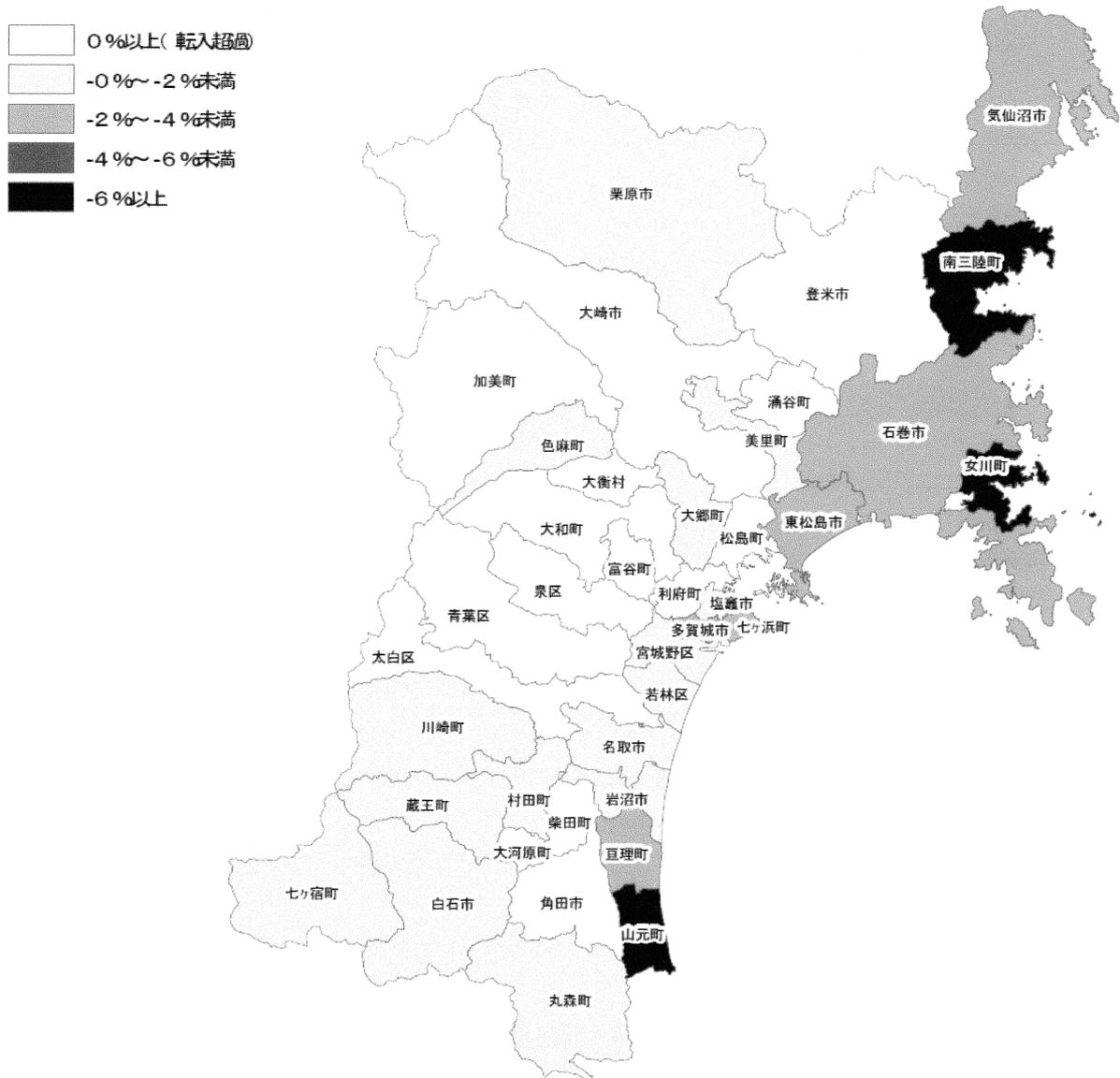


図7. 宮城県の市町村別転入・転出超過率（平成23年）

（総務省統計局 2012 「住民基本台帳人口移動報告平成23年結果—全国結果と岩手県、宮城県及び福島県の人口移動の状況」、p.27）

転出超過となっているのは24市区町で、名取市、亶理町、仙台市若林区など5市区町が前年の転入超過から転出超過に転じている。なかでも名取市は前年1042人の転入超過から507人の転出超過となっている。前年に比べて転出超過数が増加しているのは12市区町となっており、石巻市（5041人）、気仙沼市（1973人）、南三陸町（1562人）など6市区町が1000人台の大幅な増加となっている。一方、栗原市、塩竈市など6市町では、前年に比べて転出超過数が減少している。転出超過率をみると、最も高いのは南三陸町の9.40%となり、次いで山元町（8.89%）、女川町（7.36%）などとなっている。これらのデータから、宮城県でも、被災した海岸部から内陸の都市などへ移動

している様子が窺える。ただし、岩手県は県内への移動が多かったのに対して、宮城県では、県内への移動ばかりでなく、県外への移動も少なくないことが特徴として言える。県内ばかりでなく、県外へ移動する人が多くいるという点では、岩手県よりも、日常母方言を使う機会が減り、共通語を用いる環境に置かれる話者が多くなる可能性がある。

市区町村の転入・転出超過率を年齢3区分別にみると、0～14歳の転出超過率が最も高いのは南三陸町の14.55%で、前年の転入超過から転出超過に転じている。次いで女川町(13.20%)、山元町(9.78%)などとなっている。一方、転入超過率が最も高いのは大衡村の6.16%で、次いで大和町(4.85%)、富谷町(3.91%)などとなっている。15～64歳の転出超過率が最も高いのは、南三陸町及び山元町の9.98%で、次いで女川町(7.50%)などとなっている。一方、転入超過率が最も高いのは、大和町の3.24%で、次いで大衡村(2.55%)、仙台市青葉区(1.81%)などとなっている。65歳以上の転出超過率が最も高いのは、山元町の6.61%で、次いで南三陸町(6.19%)、女川町(5.33%)などとなっている。一方、転入超過率が最も高いのは松島町の1.23%で、次いで利府町(1.18%)、富谷町(1.16%)などとなっている。山元町は、方言を用いると目される高年層の転出が著しく、方言自体の衰退が危ぶまれる。南三陸町や女川町は、中年層以下の転出が目立ち、継承の問題が予想される。

年齢区分	1	2	3
0～14	南三陸町	女川町	山元町
15～64	南三陸町・女川町		山元町
65～	山元町	南三陸町	女川町

3.2.2.3 福島県の転出・転入の状況

最後に、移動の著しい福島県の転出・転入状況の特徴を見る。平成23年における転入・転出超過数をみると3万1381人の転出超過となり、前年に比べて、転出超過数は2万5629人の増加となっている。福島県で転出超過数が3万人を上回るのは、昭和38年以来48年ぶりとなっている。

表8. 福島県の転入者数、転出者数、転入・転出超過数及び県内移動者数(平成22年、平成23年)

(総務省統計局2012「住民基本台帳人口移動報告平成23年結果—全国結果と岩手県、宮城県及び福島県の人口移動の状況」、p.31)

区分	転入超過数 (-は転出超過)			他都道府県からの転入者数				他都道府県への転出者数				県内移動者数			
	平成23年	平成22年	対前年 増減数	平成23年	平成22年	対前年増減		平成23年	平成22年	対前年増減		平成23年	平成22年	対前年増減	
						実数	率(%)			実数	率(%)			実数	率(%)
総数	-31,381	-5,752	-25,629	21,741	25,611	-3,870	-15.1	53,122	31,363	21,759	69.4	27,613	27,958	-345	-1.2
男	-13,798	-2,249	-11,549	12,779	14,658	-1,879	-12.8	26,577	16,907	9,670	57.2	13,933	14,175	-242	-1.7
女	-17,583	-3,503	-14,080	8,962	10,953	-1,991	-18.2	26,545	14,456	12,089	83.6	13,680	13,783	-103	-0.7

(人)

表8より、転出の傾向を見ると、平成23年における県内移動者数は2万7613人となり、前年に比べて345人(1.2%)の減少となっている。県内移動者数は前年に比べて減っているのに対し、一方で他都道府県への転出者数は、前年に比べて著しく増えている(69.4%増)。岩手県・宮城県の傾向に比べ、他都道府県への移動が際立っていると見てよいだろう。

転出者数を転出先の都道府県別にみると、前年に比べて増加しているのは、東京都など3都県で2000人台、山形県など5道県で1000人台などとなっている。福島県の総人口を考えれば、先の宮城県と比べても、それぞれの地域への移動者の数は極めて顕著な傾向と言える。他の都道府県への転出者数を、転出先の市区町村別にみると(表9)、仙台市青葉区(宮城県)が最も多く、次いで同太白区(宮城県)、山形市(山形県)などとなっている。上位30市区町村のうち、東京都が9市区、宮城県が5区を占めている。

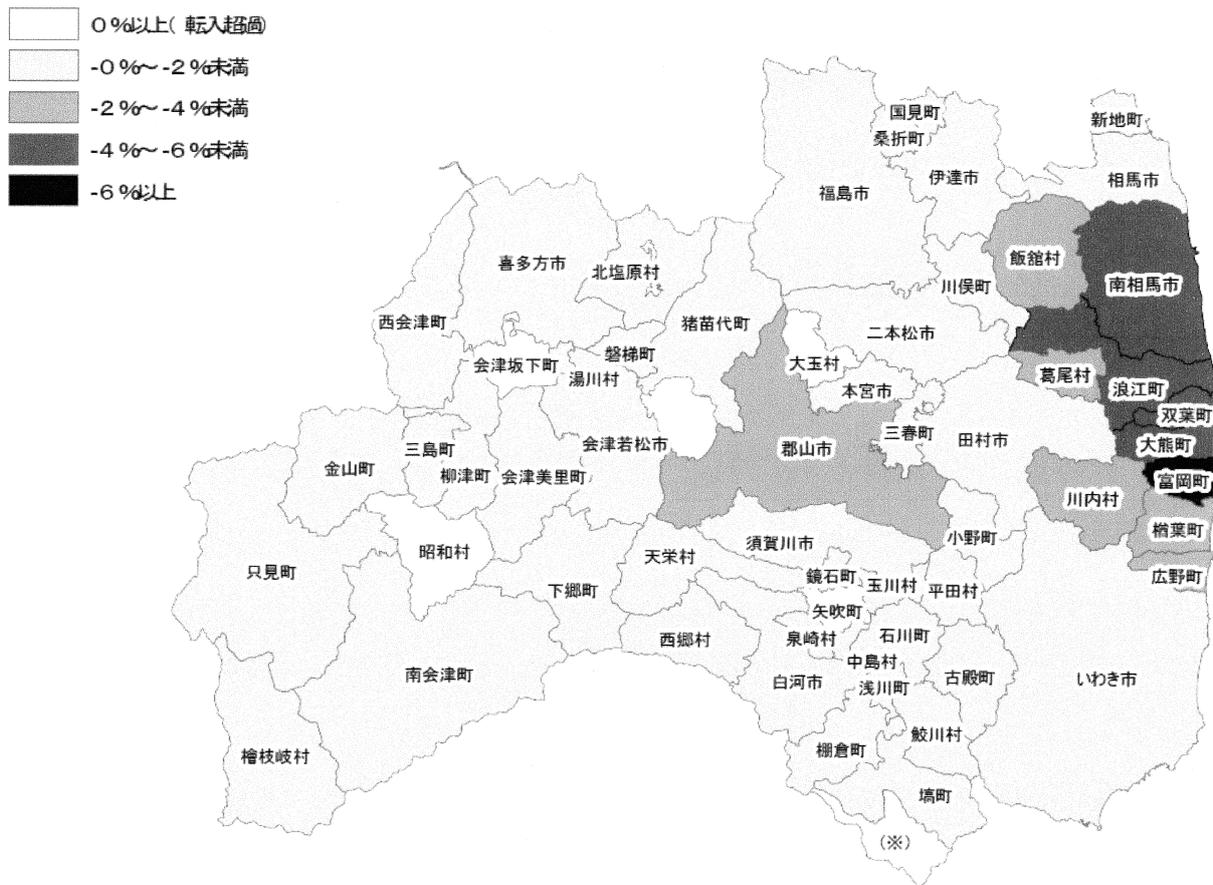
ここまでの結果をまとめると、福島県の移動者の移動先は、隣県だけでなく、東京などの遠隔地へ移動するケースも多いということである。しかも、その移動者の人数自体が、全体的に宮城県よりも大きい。岩手県・宮城県の他2県に比べても、似た方言との交渉を通じた変化に晒される話者はもちろん、共通語を用いる環境に置かれる話者も、相当な数に及ぶと言える。したがって、それぞれの被災地の話者の母方言が衰退へ向かう可能性が極めて高いと言える。

表9. 福島県の転出先の市区町村別他の都道府県への転出者数(上位30市区町村)(平成22年、平成23年)

(総務省統計局2012「住民基本台帳人口移動報告平成23年結果—全国結果と岩手県、宮城県及び福島県の人口移動の状況」、p.32)

順位	転出先の市区町村		平成23年	平成22年	対前年増減数	順位	転出先の市区町村		平成23年	平成22年	対前年増減数
1	仙台市青葉区	宮城県	1,518	907	611	16	八王子市	東京都	410	301	109
2	仙台市太白区	宮城県	1,170	682	488	17	水戸市	茨城県	403	302	101
3	山形市	山形県	986	388	598	18	東京都杉並区	東京都	384	339	45
4	宇都宮市	栃木県	983	510	473	19	東京都足立区	東京都	384	260	124
5	仙台市宮城野区	宮城県	794	650	144	20	川口市*	埼玉県	376	240	136
6	仙台市泉区	宮城県	781	569	212	21	成田市	千葉県	369	69	300
7	仙台市若林区	宮城県	643	502	141	22	日立市	茨城県	365	240	125
8	米沢市	山形県	547	168	379	23	船橋市	千葉県	362	253	109
9	東京都世田谷区	東京都	545	460	85	24	那須塩原市	栃木県	348	231	117
10	東京都江戸川区	東京都	499	342	157	25	野田市	千葉県	341	48	293
11	東京都板橋区	東京都	493	336	157	26	新潟市中央区	新潟県	303	145	158
12	東京都大田区	東京都	456	358	98	27	東京都中野区	東京都	300	224	76
13	東京都練馬区	東京都	447	314	133	28	松戸市	千葉県	297	234	63
14	秋田市	秋田県	437	248	189	29	市川市	千葉県	295	250	45
15	盛岡市	岩手県	429	330	99	30	柏崎市	新潟県	287	81	206

*) 埼玉県鳩ヶ谷市は平成23年10月10日に埼玉県川口市に編入された。したがって、平成23年1月1日から10月9日までの旧鳩ヶ谷市への転出者数を含む。
また、川口市への平成22年の転出者数は旧鳩ヶ谷市への転出者数を足しあげたもの。



(※) 平成23年12月31日現在、住民基本台帳ネットワークシステムに接続していない矢祭町は除く。

図8. 福島県の市町村別転入・転出超過率（平成23年）

（総務省統計局 2012 「住民基本台帳人口移動報告平成23年結果—全国結果と岩手県、宮城県及び福島県の人口移動の状況」、p.34）

では、次に市町村別の転入・転出超過状況を見ていこう（図8）。転出先の市町村別にみると、前年に比べて減少しているのは、南相馬市（268人）、富岡町（242人）、大熊町（238人）などとなっている。原発付近の市町村への移動が減っていることが分かる。平成23年12月31日現在の福島県の58市町村についてみると、県内で転入超過となっているのは大玉村、会津坂下町及び昭和村の3町村のみである。

一方、転出超過となっているのは郡山市、いわき市など55市町村で、10町村が前年の転入超過から転出超過に転じている。なかでも、富岡町は前年28人の転入超過から1086人の転出超過に、大熊町は186人の転入超過から532人の転出超過に転じている。前年に比べて、転出超過数が増加しているのは28市町村で、郡山市（7178人）、いわき市（5064人）、福島市（4085人）、南相馬市（3339人）、浪江町（1029人）の増加などとなっている。一方、会津若松市など17市町村では、前年に比べて転出超過数が減少している。

転出超過率をみると、最も高いのは富岡町の6.83%となり、次いで双葉町（5.56%）、浪江町

(5.51%)、南相馬市 (4.99%)、大熊町 (4.65%) などとなっている。

以上のデータから原発付近の市町村からは人が多数移動し、離れた内陸の市町村へ動いている様子が窺える。ただし、数値を見ると、岩手県・宮城県ほど県内への移動が多くないようである。それは、図8で転入超過に転じている市町村が少ないことから分かる。

市町村の転入・転出超過率を年齢3区分別にみると、0～14歳の転出超過率が最も高いのは南相馬市の10.13%で、前年に比べて10.10ポイントの上昇となっている。次いで富岡町(8.53%)、川内村(8.46%)及び浪江町(8.12%)の3町村が8%台となっている。15～64歳の転出超過率が最も高いのは富岡町の7.02%で、次いで浪江町(5.93%)、双葉町(5.92%)及び南相馬市(5.51%)の3市町が5%台となっている。65歳以上の転出超過率が最も高いのは、富岡町の5.42%で、次いで双葉町(4.21%)、浪江町(3.31%)などとなっている。

富岡町は、方言を用いると目される高年層の転出が著しい上、中・若年層～少年層の転出も多く、方言衰退の危機に直面していると見られる。少年層の転出が多い南相馬市でも、今後、継承の問題が浮上することが予想される。

年齢区分	1	2	3
0～14	南相馬市	富岡町	川内村
15～64	富岡町	浪江町	双葉町
65～	富岡町	双葉町	浪江町

最後に福島県の移動状況について付言するならば、福島県の被災地で、人の移動が著しい地域は、原発事故による被害の影響が大きく、それを移動状況の判断に加味して、当地の方言の危機の度合いを導き出す必要があることを述べておく。つまり、その地域に当地の人が戻るには、地震による被害からの復興に加え、原発事故による被害からの回復も要するものと考えられる。その意味で、これらの地域の話者は、長期の移動期間を強いられると考えられ、その分、移動先でのコミュニケーション環境から受ける影響も大きいと容易に推測できる。したがって、3.2節での分析に、この点を考え合わせると、移動状況の現状から判断すると、福島県の被災地の市町村が、方言衰退の危機の度合いが高いと言える。

3.3 問題点Ⅲのまとめ

本節では、今後、被災地各地の方言に起きうる変化の方向性を見極め、各地域の被害の大小や被害自体の継続性など、方言の変化に影響する言語外的な諸要因について、理論的に考察し、それを踏まえ、大震災に関わる社会的影響の統計データとして住基移動報告を参照して、当該地域の方言が危機にあると目される地域を考察する試みを行ってきた。

考察の結果、方言の変化に影響すると考えられる、大震災にまつわる直接的な要因としては、以下のようなものを導き出した。

A. 被害状況及び移動状況

A-1 話者の喪失状況

①死者・行方不明者数

A-2 話者の移動（転出）状況

②移動数（転出数）

③移動期間

④移動先との距離（＝方言の似かよ度）

これに、「B. 被災者の特徴」「C. 被災地域の特徴」が掛け合わさることで当地の方言に及ぶ影響の詳細が推測できると考えた。さらに、移動者の母方言に起きうる変化の内実としては、共通語化や、方言間での統合・混合などが想定でき、いずれであれ、移動者の母方言は衰退の方向での変化をたどるものと推測される。

さらに、以上の理論的考察を踏まえ、影響を与える言語外的要因の一つの、話者の移動状況について、平成 23 年住基移動報告を参照し、特に岩手県・宮城県・福島県の 3 県について、人の動きの流れから、当地の方言が危機にあると思われる地域を導き出す考察を行った。

その結果、特に、他都道府県への転出が多く、この先の移動期間も長いと目される福島県や、県内外への人の動きの流れが大きい宮城県などで、被災地各地の方言が衰退へ向かう危機にあるという示唆を得た。

4. 問題点Ⅰ～Ⅲの総括、及び今後の課題

最後に、言語外的な要因として、話者の移動状況の現状のみからではあるが、その観点から見て方言衰退の危機にある地域（問題点Ⅲ）と、貴重な方言が多く分布するという意味での方言衰退の危機にある地域（問題点Ⅰ・Ⅱ）を突き合わせ、早急な対応を要する地域を検討し、提言する。

これは、すなわち、ことばの面から検討した方言の貴重さのあり方と、現実社会の状況から検討した方言の危機の逼迫度を突き合わせ、総合的に把握することで、各地の方言の将来を見越し、早急に対処を要する地域を洗い出す試み、と位置づけられる。

まず、問題点Ⅰ・Ⅱの検証での、方言学的な見地からは、宮古市・種市町などの地域に貴重な方言が存し、記述がとりわけ強く求められると導き出した。しかし、これらの地域は、問題点Ⅲの影響を与える要因の一つである、話者の移動状況の現状から見た場合、人口流出が著しく進み、差し迫った危機にあるとは判断できない。

むしろ、LAJ で 3 番目、GAJ で 6 番目に多く貴重な方言が分布し、全国市町村転出超過数でも 3 番目になる石巻市は、双方の面から危機にあると判断できる。LAJ で 4 番目、GAJ で 1 番目に多く、転出超過数でも全国 7 番目になる気仙沼市も同等の危機にあると判断してよいだろう。LAJ で 5 番目、転出超過数でも全国 5 番目に位置する南相馬市も、特に語彙面での保存の問題が急がれる。また、文法の面では GAJ で 3 番目に位置し（GAJ では本吉郡志津川町）、転出超過数で全国 9 番目

に位置する南三陸町も、津波による被害が大きく、話者の移動が長期化することが予想でき、その意味で、方言へ与える影響を過小評価することはできない。さらに、総人口に占める転出超過数の割合から判断すると、GAJで4番目と、貴重な文法項目の多い山田町も危機的状況と言える。これは大槌町の語彙項目についても言える。さらに、LAJで7番目、GAJで4番目に貴重な方言の存する亘理町も転出超過数の割合の面から見て、危機的状況にあると言える。

逆に、先にも述べたが、問題点Ⅰ・Ⅱで、貴重な方言が多くあると判断した洋野町や宮古市、さらに、階上町などは、言語外的要因の現状の1側面である移動状況から見ると、宮城県や福島県の市町村に比べ、危機状況は逼迫しておらず、すぐさま対応を要すると考えなくてもよいと思われる。

それでは、問題点Ⅰ・ⅡとⅢの結果を突き合わせ、総合的に早急な対応の必要があると導出した石巻市や気仙沼市にさえ対応すればよいか、と言うとそうとも言い切れない。それは、問題点Ⅰ・Ⅱの結果が、あくまで言語地図の調査地点上を捉えたもので、言語地図の調査地点をとっていない地域でも、貴重な方言が存し、かつ言語外的要因の移動状況の現状で危機にある可能性があるからである。そういった意味では、言語外的要因の現状から判断して危機にある地域の方言は、とりもなおさず優先的に記述の有無を確認し、必要に応じて対応しなくてはならない。今回の移動状況の現状からは、とりわけ、福島県原発付近の各市町村（富岡町など）は、早急な対応が求められる。

最後に今後の課題を述べる。

今回の総括に当たって、問題点Ⅲについては、あくまで、平成23年住基移動報告という確定したデータで、話者の移動状況の一要因から分析・考察を行ったものである。今後、話者の喪失状況なども考え併せ、言語外的要因の現状から危機にある方言を精査したうえで、再度、真に衰退の危機にある方言の考察を行う必要がある。

また、言語外的要因の現状を、総合的に測る際には、諸要因相互の関係をもっと突き詰めて考えていかなければならない。死亡者数はダイレクトに影響を及ぼすという意味で影響が大きい、避難者数は、いずれ土地土地に帰ってくるという可能性を残すものであり、その意味で、影響力が同じとは考え難い。このように各要因は単純に並列するものとは言えず、相互に関わりあう、あるいはどれかがどれかを包含する、あるいは上位下位関係にあることも考えられる。今回の考察では、列挙するにとどまったが、今後考察を深め、考えられる要因の影響の精緻化を行う必要がある。

今回の試みを経て、考え直すべき課題も存する。移動の状況に関して、今回は、被災地の方言に影響を与えるものとして、当該方言話者の転出数を中心に焦点を当て、当該方言に及ぶ変化に重点を置いて考察したが、コミュニケーションが相互のものである以上、受け入れ先の方言の変化も考える必要がある。つまり、どこでどこからの話者をどれくらい受け入れたかという視点で、転入受け入れ先の変化にも目を向けるということである。被災地の話者を多く受け入れる、すなわち、他所の方言を話す人が大量に入ってくるということは、必然的に、受け入れた側もコミュニケーションの環境が変わる可能性が高まるということである。それに伴い、大量に受け入れた市町村側の方言も、多かれ少なかれ影響を受け、変化する可能性は否めない。今回はその点にまで分析・考察が及ばなかったが、今後はそういった点を視野に入れた考察が求められる。

さらに、住基移動報告を具体的に参照することで、「被災地」について再考する余地があることが明らかになった。例えば、全国市町村転出超過数第1位の郡山市は、津波の被害も受けておらず、原発の直接の警戒・避難区域に指定されているわけではないが、人口の流出が著しい。また液状化の影響で住民の転出が増えたと見られる千葉県などの市町村も、話者が他所へ離れ、その点で当地の方言が変化の危機に晒されている可能性を考えなくてはならない。

また、今後考察を要する移動状況の内の一要因として考えられる、移動期間の長短の判断には、移動している人の意識などのデータが必要となる。今回は詳しく触れるに至らなかったが、自然災害に伴う避難などで移動した人々の意識やネットワークの変化は、三宅島の災害復興にあたっての帰島民の意識・生活状況調査などを行った社会学の成果（田中ほか編 2009 など）が参考になる。今回の大震災に伴う言語への影響を同定するには様々な要因への目配り・調査による実態把握が必要であり、それは個々の分野の力だけでは賄いきれない。単分野の総力のみならず他分野との連携をも視野に入れた、協力体制での研究が必要だと思われる。

文 献

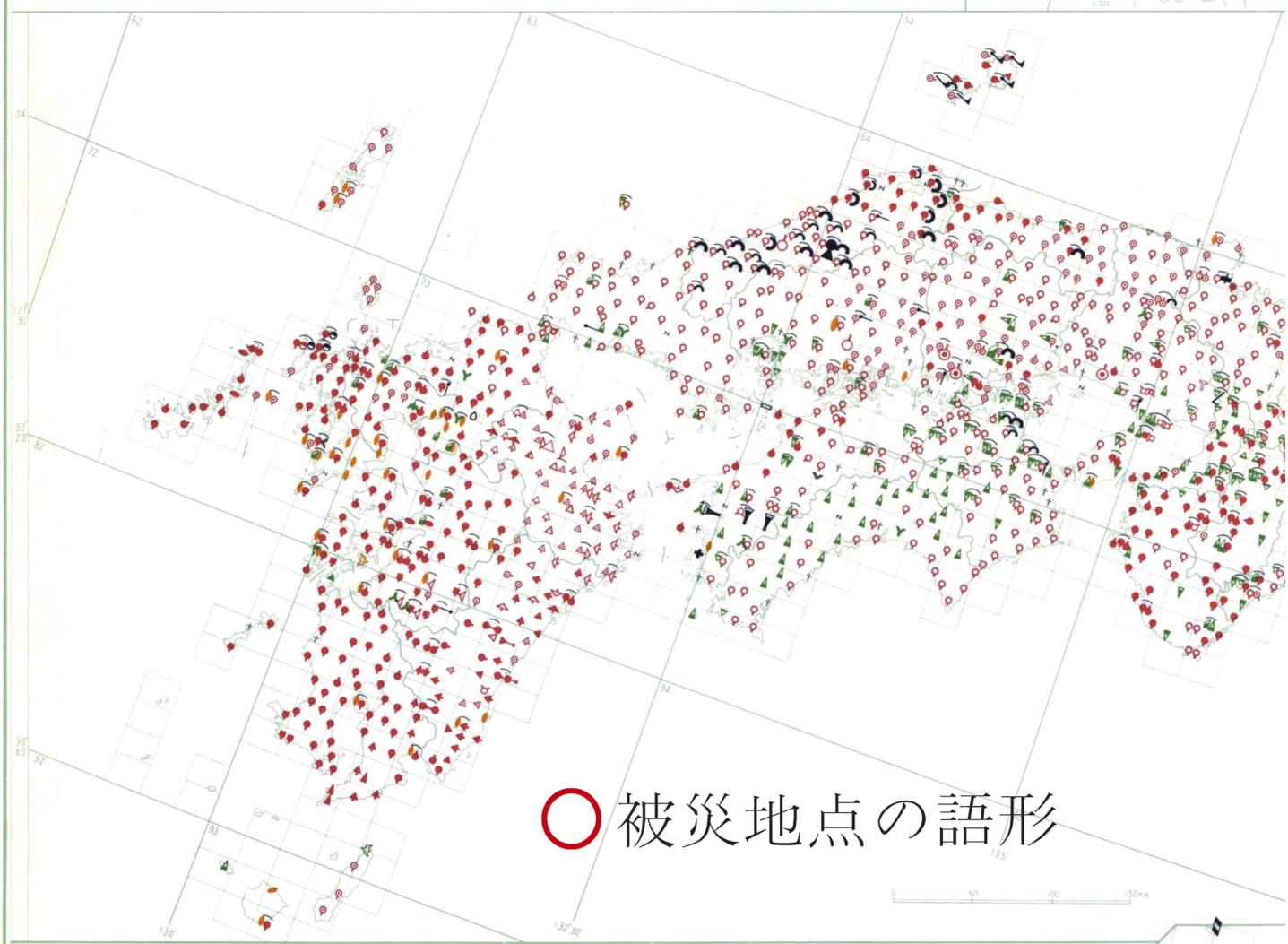
- 井上孝(2011)「原発近接地域の人口・世帯の分布と構造」『統計』62-9、日本統計協会
- 大友篤(2011)「東日本大震災地域の標高別人口分布と産業基盤—ジオデモグラフィックスによる分析」『統計』62-9、日本統計協会
- 大矢根淳・浦野正樹・田中淳・吉井博明編(2007)『災害社会学入門』弘文堂
- 国立国語研究所編(1966～1974)『日本語語地図』第1集～第6集、大蔵省印刷局
- 国立国語研究所編(1989～2006)『方言文法全国地図』第1集～第6集、財務省印刷局
- 小林好日(1944)『東北の方言』三省堂
- 小林隆編(2003)『宮城県石巻市方言の研究』東北大学国語学研究室
- 佐藤喜代治(1966)「岩手県三陸地方北部の言語調査報告」『日本文化研究所報告別巻』4号、東北大学日本文化研究所
- 佐藤喜代治・加藤正信(1972)「三陸地方南部の言語調査報告」『日本文化研究所報告別巻』8・9号、東北大学日本文化研究所
- 小林隆・篠崎晃一(2003)『消滅の危機に瀕する全国方言語彙資料』大阪学院大学情報学部
- 多賀城市史編纂委員会(1984)『多賀城市史 第3巻 民俗・文学』多賀城市
- 田中淳史・サーベイリサーチセンター編(2009)『社会調査で見る災害復興—帰島後4年間の調査が語る三宅帰島民の現実』弘文堂

参 考 H P

- 「東北大学方言研究センター」<http://www.sal.tohoku.ac.jp/hougen/>
- 「東日本大震災関連情報—総務省統計局・政策統括官（統計基準担当）の統計調査等関連の取り組み」<http://www.stat.go.jp/info/shinsai/index.htm#kekka>

207 おうし (牡牛) bull ①Aの例

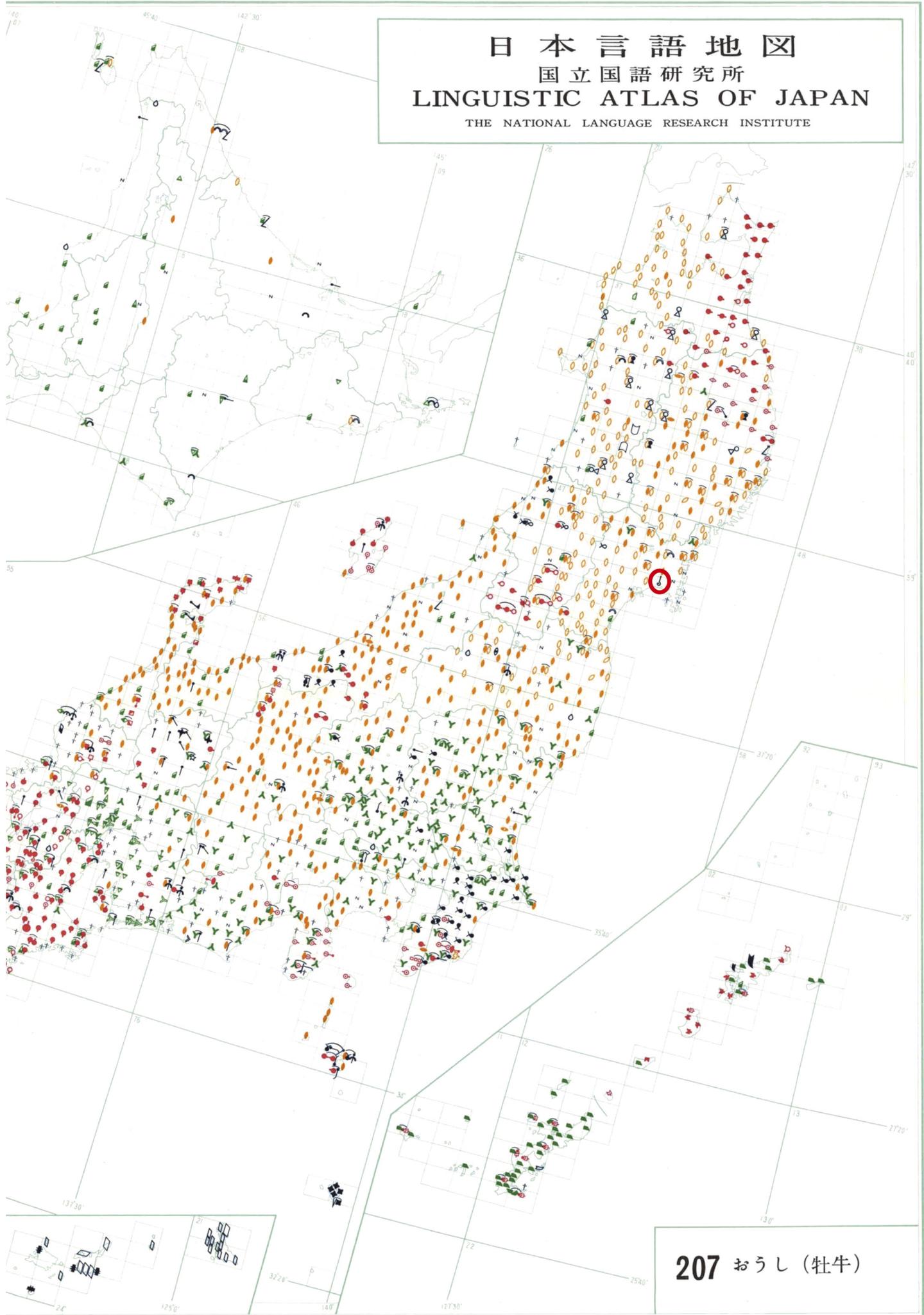
- | | | | | | | |
|---|--|--|---|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> OUZI OOSUI OUIZI OGYUU OBEOI UUSUI UUHUSI UUUSAA ON ON'USI USINOOON ON'UZI ONKO ONBOUSI ONBOUSIME ONTA ONTAUSI ONTABEKO ONTABOO OTAUSI ONCYOOSUI OCCYAA ONCU OSU OSUUSI OSUNOUSIME OSUNOUSINENBO OSUGYUU OTOKO OTOKOME OTOKOUSI | <ul style="list-style-type: none"> OTOKOUSIME OTOKOUSI OTOKOOSI OTOKOUZI OTOKOBEKO OTOKOBEKO OTOKOBO OTOKONBOO OCUKOUSI OTOUSI IKIGAAUSI INGAUSI YENGAUSI BIKIUSI BIGIUSI BIGIUCI BIGHUSI BIUSI BIUSI YARO YAROUSI BOYARO YAROO YAROOUSI YAROOBEKO KOTOI KOTTOI KOTTOIUSI KOTTOIUSI KOTTOE | <ul style="list-style-type: none"> KOTTAI KOTEE KOTEEUSI KOTEEBEEKO KOTEEBOKKO HOTEE KOTE KOTEUSI KOTEUHI KOTEBEKO KOTEKO KOTERO KOTTEE KOTTEEUSI KOTTEEUZI KOTTEI KOTTE KOTTEUSI KOTTEUHI KOTTEUZI KOTTEGORO KOTTEBO DOKOTTE HOTTE KOTENBO KOTENBOO KOTTEN KOTTEN'USI OTE OTEUSI OTEBEKO OTEUSI | <ul style="list-style-type: none"> TOKEE TOKEEUSI KOTTORI KOTTORIUSI KOTOSI KOTTO KOTTOUSI KOTTOOUSI KOTUI KOCCUI KOCCUIUSI KOTTUI KOCHI KOCHIUSI KOTII KOCI KOTI KOTIUSI KOTINBO KOCCII KOTTH KOCCI KOCCUIUSI KOCCIGO KOTTI KOTTIUSI KOCU KOCUUSI KOCUUSI KOTUUSI KOCCU | <ul style="list-style-type: none"> KOCCUUSI KOT KUTH HUTHI KUTI KUTHIUSI KUTTHI KUTTHI KUTTHIUSI HUTTHIUSI HUUGUTI HUUGITI UGUTUI GOTTOI GOTTOIUSI GOOTEE GOOTEEUSI GOTEUSI GOTTEE GOTTEEUSI GOTTE GOTTEUSI GOTTEBO GOTTENBOOUSI DEKKO GOTOUSI GOTTO GOTTOUSI GOTTOO GOTTON GOCCHO GOCCHOUSI | <ul style="list-style-type: none"> GOCCYOUSIME GOCCI GOCU BAK(KO) BAKURA CIUSI CICIUSI CICIBEKO CICIBEKO TETEBEKO DECCI DECCIUSI GORO HEETAME MEEOO OMOZI OMOOZI OTONABEKO SIBO ZOKIKIU ZOKKUME KAKEUSI KAKEBO KAKEBOKKOO KAKEBOO KAKEOSU TANEUSI TANEOSI TANEUZI | <ul style="list-style-type: none"> TANEOZI TANEBEKO TANEBO TANEBOO TANAUSI USINOTANABO KINKIRI KYOOSEE TAMATORI BO BOUSI BOGYUU BOO BOOUSI BOOKKOO BOOGYUU KATOUSI ONAMI ONNAME GANZYO GANZYOBEEKO YUUGYUU USI BEKO BEEKO |
|---|--|--|---|--|--|--|



○ 被災地点の語形

質問文：おすの牛のことを何と言いますか。(219)

日本言語地図
国立国語研究所
LINGUISTIC ATLAS OF JAPAN
THE NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE



207 おうし (牡牛)

21

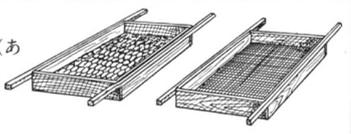
あらい(粗い) rough, loose ①Bの例

- ∨ ARAI
- ∩ AREE
- ∩ ARE
- ∧ AAREE
- ∧ AARE
- ♠ ARREE
- ∩ ARAA
- ∩ ARYAA
- ∩ ARYA
- ∧ ARII
- ARAKYA
- ARAKA
- ♠ ARAKU
- ARAGA
- ∨ ARA-
- ARAME
- ▲ ARAKOI
- ARAKUTAI
- ▲ ARAPOI
- ▲ ARAPEE
- ARAPPOI
- ▼ ARAPPEE
- ▲ ARAPPE
- ▼ ARAPPII
- ▲ ARAPOSII
- ∨ OOKII
- ▼ OOKINA
- ∩ OOKINAI
- OOKINAKA
- ∨ OKKEN
- ◀ OOKITAI
- BOOKYA
- ◀ OOME
- ★ BOOME
- ✂ OOMAKAI
- ✂ OOMAKA (DA)
- † UPU-
- ▲ HUU-
- ▼ WUU-
- HUTOI
- HUTOKA
- ◀ HUTE-
- DEKAI
- ◻ DEKOI
- ▼ IKAI
- ★ ZUNAI
- ◆ ZUNNAI
- ◻ MAI-
- ◻ **USUI**
- ◻ ACUI
- ★ KARAI
- ▲ ABARAI
- ZAKKA
- ✂ GOCCUI
- ✂ 無回答 no response

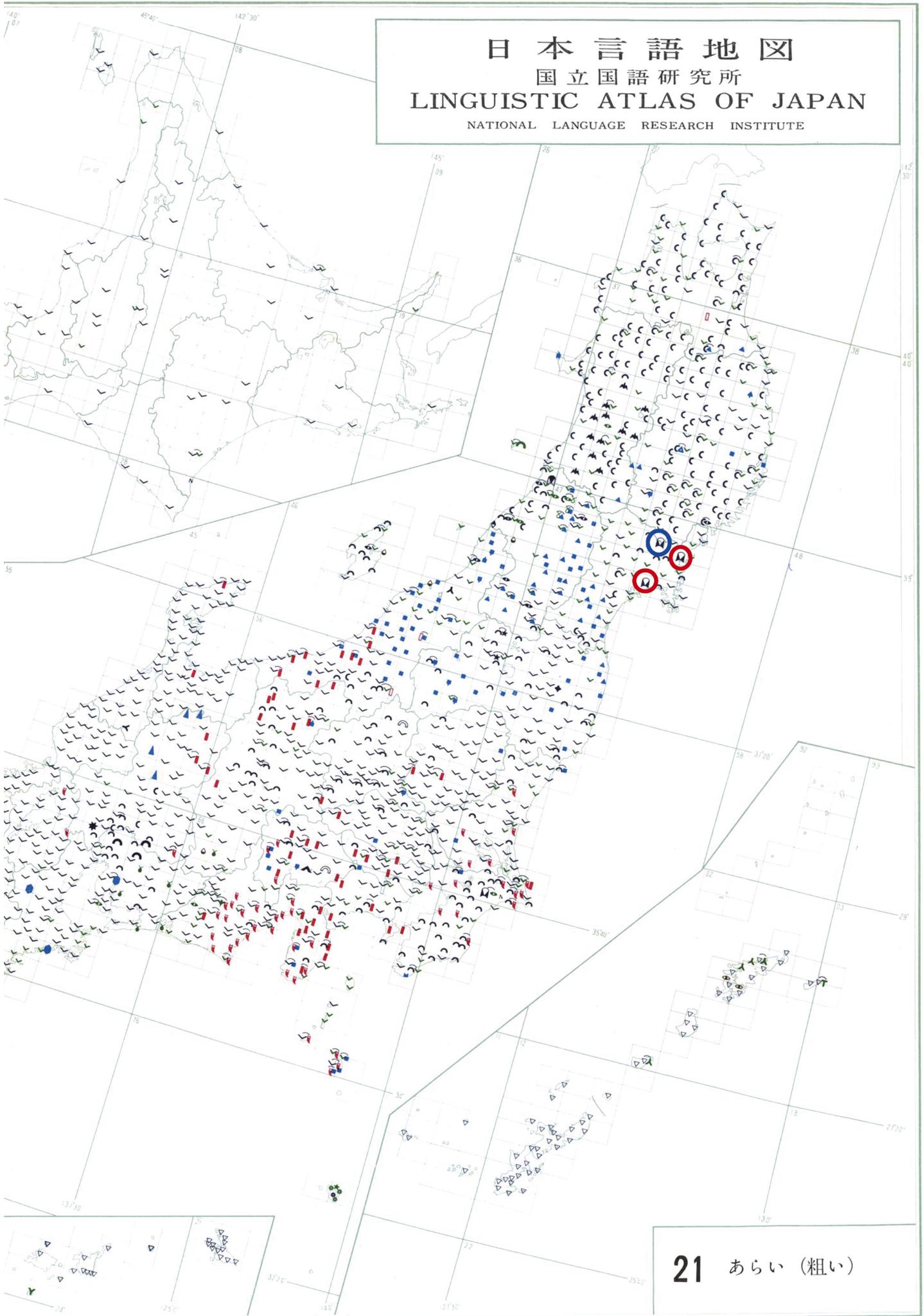


○ 被災地点の語形
 ○ 同形の語形

質問文：二つのふるいがあります。大きさは同じですが、ただ網の目が違います。両方を比べてとき(あらい方をさし)こちらの目は(細かい方をさし)こちらの目よりもどうだと言いますか。(162)



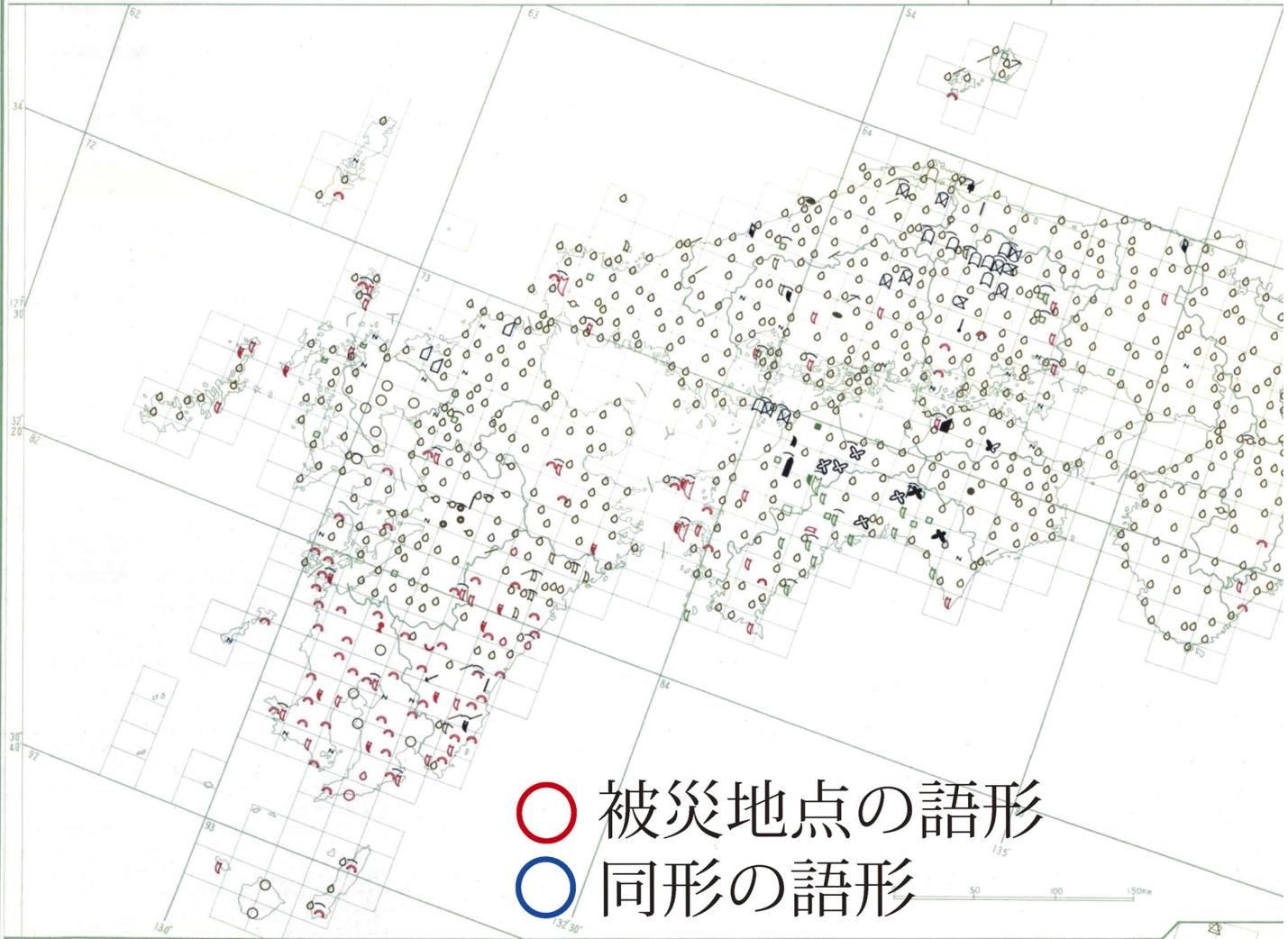
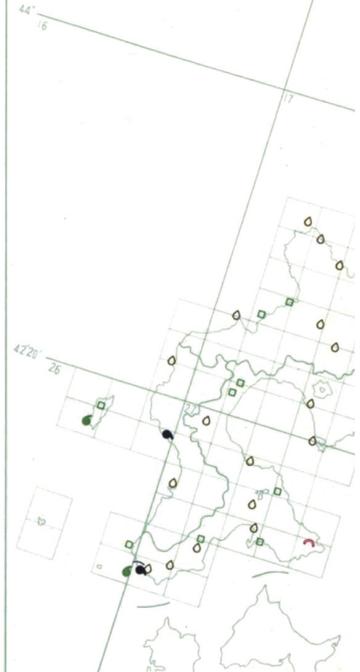
日本言語地図
国立国語研究所
LINGUISTIC ATLAS OF JAPAN
NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE



21 あらい (粗い)

198 もり (森) grove (around a shrine) ①Bの例

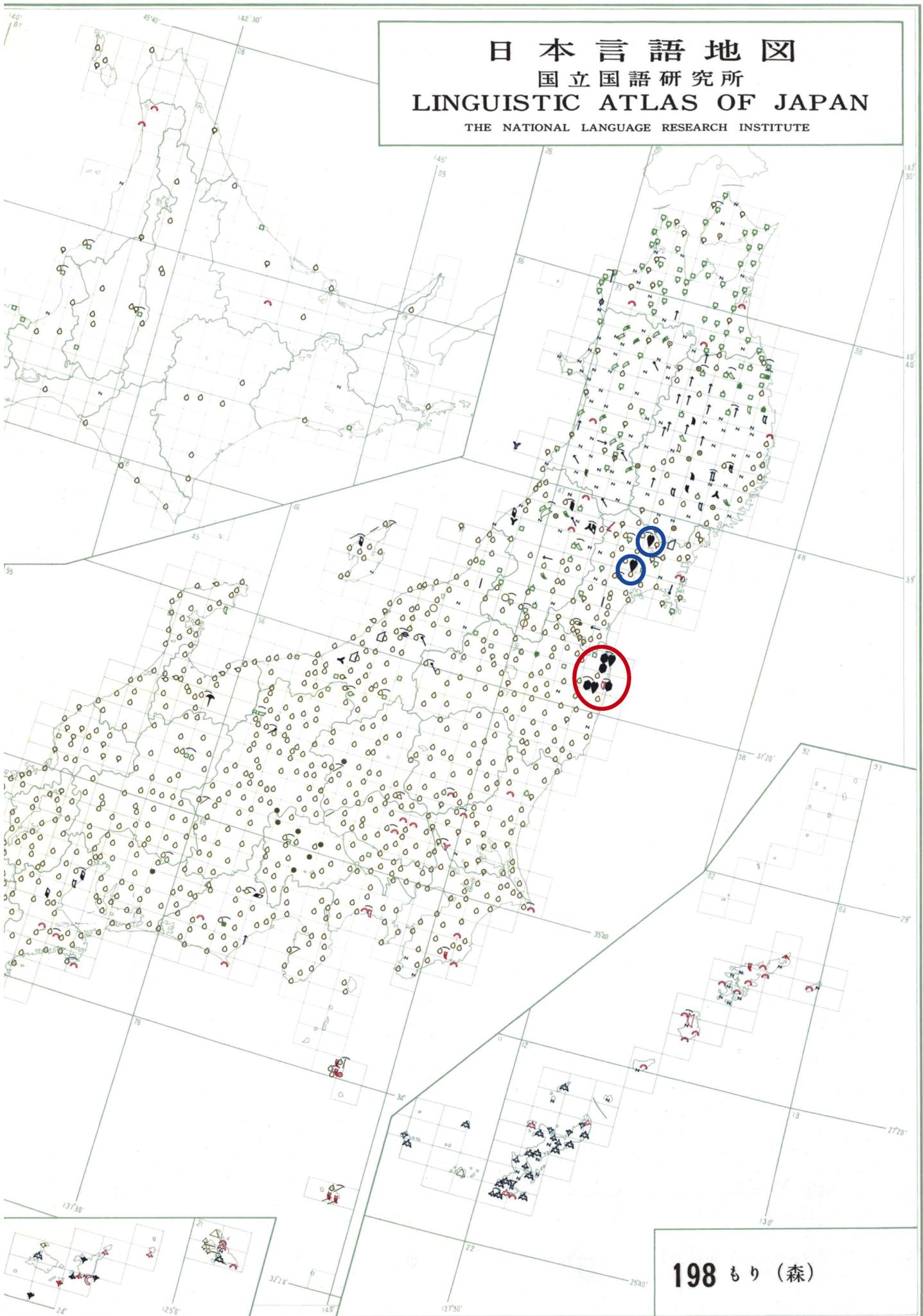
- | | | | | |
|---------------------|----------------------|------------------------|------------------------|---------------------------|
| ○ MORI | ↖ YAMA | ■ OHAYASI | ← KEIDAINOKI | ↖ YASIRO |
| ◐ MORĪ | ● YAMAKKO | ▼ OHAYASĪ | ↓ SINBOKU | ↖ KAMI(SAMA)(NO)(O)YASIRO |
| ◑ MORE | ↖ OYAMA | ▲ OHAYASU | ↖ SYA(CI)BOKU | ↖ KEIDAI |
| ◒ MORU | ↖ UYAMA | ○ MORI(NO)HAYASI | ↖ SYOBOKU | ↖ GENKEIDAI |
| ◓ MORO | ↖ YAMAAMA | ◐ MORĪBAYASĪ | ● KIWARA | ↖ KAMISAMANOKEIDAI |
| ◔ MOT | ↖ YAA | ◑ MORĪNOHAYASU | ↖ YASIKI | ↖ SYACI |
| △ MURI | ◑ MORIYAMA | ◒ MOROBAYASI | ↖ OMIYANOYASIKI | ↖ UGAMI |
| ◕ MULĪ | ○ MOIYAMA | ↖ MIYA(NO)HAYASI | ▲ KAMI(SAMA)(NO)YASIKI | ◕ UGAN(ZYU) |
| ◖ MURU | ↖ (O)MIYA(NO)YAMA | ◑ (O)MIYA(NO)HAYASĪ | ← ODOOYASIKI | ↖ ON |
| ○ MOI | ↖ MIYAMA | ↖ OMIYANOHAYASU | ◐ OMIYANOSANRIN | ▲ ONNUKIURUSI |
| ◐ MOĪ | ↖ KAMI(SAMA)(NO)YAMA | ↖ MIYABEESI | ◑ ZINZYAZIN | ↖ WAA |
| △ MUI | ↖ UGAN(ZYU)YAMA | ↖ ZINSYABAYASI | ♣ SYARIN | ▲ UTAKI |
| ◑ MORIKO | ▲ ONKAN'YAMA | ↖ ZINZYANOHAYASĪ | ⊗ OHAI | ▽ TUN |
| ◐ MORĪKO | ↖ WAN'YAMA | ↖ ODO(NO)HAYASĪ | ⊗ OHAE | ● KAKOI |
| ／ MORIKI | ▲ UTAKINUYAMA | ↖ KAMISAMANOHAYASĪ | ⊗ OHEI | ● EGUNE |
| — KIMORI | ↖ TERAYAMA | ↖ KAMI(SAMA)(NO)HAYASU | ⊗ (O)MIYA(NO)HAE | ↑ KAINYOO |
| — KIMULĪ | ↖ TACIGIYAMA | ↖ TERABAYASI | ↖ (O)HURO | ↑ GUROGURO |
| ● OMORI | ↖ YASIKIYAMA | ↖ TERABAYASĪ | ⊗ MIYA(NO)(O)HURO | ※ 無回答 no response |
| ● KOMORI | ↖ ACCIYAMA | ● HAYASIWARA | ⊗ KAMISANNOOHURO | |
| ◐ KONMORI | | | ⊗ SYAHURO | |
| ◐ MORISAN | □ HAYASI | KI | ⊗ MIYABU | |
| ◐ SYAMORI | ◐ HAYASĪ | ↑ (O)MIYA(NO)KI | ⊗ YABU | |
| ◐ (O)MIYANOMORI | ◐ HAYASU | ↓ KAMISAMANOKI | ↖ (O)MIYA(SAN) | |
| ◐ KAMI(SAN)(NO)MORI | □ HAYAI | ↓ KANGI | ↖ MIYAKAKUSI | |
| ◐ MORIHURO | ▣ HYAASI | → ODONOKI | ↖ MIYANNIWA | |
| | ▣ HEESI | ↖ SYACINOKI | | |



○ 被災地点の語形
 ○ 同形の語形

質問文：お宮の境内などに木が一所に集ってこんもりと生えている場所のことを何と言いますか。(138)

日本言語地図
国立国語研究所
LINGUISTIC ATLAS OF JAPAN
THE NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE



198 もり (森)

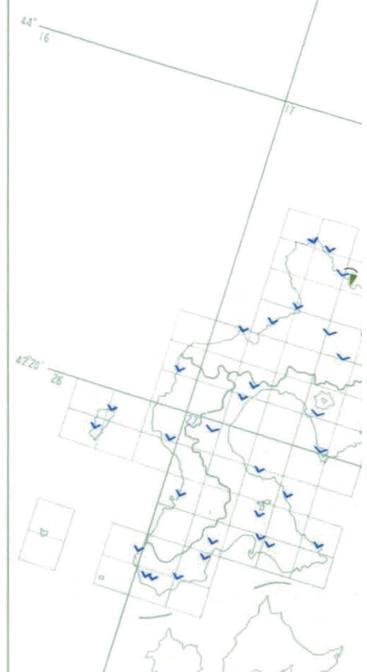
245 きのこ (茸・蕈) mushroom ②Aの例

- | | | | |
|--------------|-----------------|-------------|--------------|
| ▽ KINOKO | ■ HATTAKE | ○ NABA | ✂ KUSABURA |
| ◁ KINOKOO | ▼ HACUDAKE | ○ NABAA | ✂ SABIRA |
| ▽ KINNOKO | ✂ HANDAKE | ○ NAABA | ✂ KUSABIRO |
| ▷ KINOHO | ▼ KATTAKE | ○ NABAN | ○ SIBAHARI |
| ▷ KINUKU | ▼ MACUTAKE | ○ NAWA | ↑ SIMEZI |
| ◁ CINOKO | ▼ MATTAKE | ○ NAWAA | ↓ SIMIZI |
| ▽ KINOGO | ▼ MACUDAKE | ○ NAWA | ← HIMIZI |
| ▽ KINNOGO | ▼ KOEMATTAKE | ○ NAMA | ▼ MODASI |
| ◁ CINOGO | ▲ GOZYADAKE | ○ ZINABA | ▲ MODASE |
| ↑ CUNOGO | ▲ ZOOTAKE | ○ DOKUNABA | ▲ ZAZANBO |
| ↑ CUCIGINOKO | ▲ ZYOOTAKE | ▲ KOKE | ▲ KIINUBOOZĪ |
| f ZIGINOKO | ▲ ZACUTAKE | ▲ KOKEE | ▼ DOBOO |
| ▲ YAMAGINOKO | ▼ ZATTAKE | ▼ KOGE | ▲ DOBU |
| ▼ BUSUKINOGO | ▼ SHITAKE | ▼ KOGERUI | ↑ KIN |
| ▼ DOKUKINOKO | ▼ AITAKE | ▲ KOKERA | ← KINRUI |
| | ▼ YAMATAKE | ○ MIMI | ● KABI |
| ■ TAKE | ▼ DOKUTAKE | ○ MIN | ★ KAKKO |
| ■ TAGE | ▼ DOKUTTAKE | ● KIINUMIN | ✂ DOKUSOO |
| ■ DAKE | ▼ DOKUDAKE | ● MINZYUU | ■ MANKUSU |
| ■ DAGE | ▼ DOKUMATTAKE | ● MIMIGUI | |
| ▼ TAKERUI | ▼ KUSOTAKE | ▼ KUSABIRA | |
| ▼ TAKEMONO | ▼ KUSODAKE | ▼ KUSABIRAA | |
| ▼ TAKEMON | ▼ KUSOMATTAKE | | |
| ▼ HACUTAKE | ▼ MAGUSOMATTAKE | | |

以下の符号は、その地点に、
具体的には示さない語形が別
に存在することを示す。

The following signs refer to linguistic forms
not shown on the map. Their function is as
follows:

- ある種の食用茸についての個別称。(それらは、
地図上にある茸全体または食用茸の総称には含ま
れない。)
Some kinds of edible mushrooms have their distinct
names, not shown on the map neither included in the
general names. The mapped forms are the general names
either for mushrooms or for toadstools (the latter marked
with a † of the same color).
- すべての食用茸についての個別称。(この符号のある
地点には、茸全体または食用茸の総称はない。)
All edible mushrooms have their distinct names;
no general appellations were found either for
mushrooms or edible mushrooms.
- 無回答 no response
- 毒茸の総称。(各語形の符号の右肩に同色で示す。)
(with the color of the mapped form) The mapped
form is the general name for toadstools.



○ 被災地点の語形
○ 同形の語形

質問文：まつたけやしいたけなど、そのほか毒のあるものもありますが、こういうものをひっく
るめて何と言いますか。(079)



日本言語地図
国立国語研究所
LINGUISTIC ATLAS OF JAPAN

THE NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE

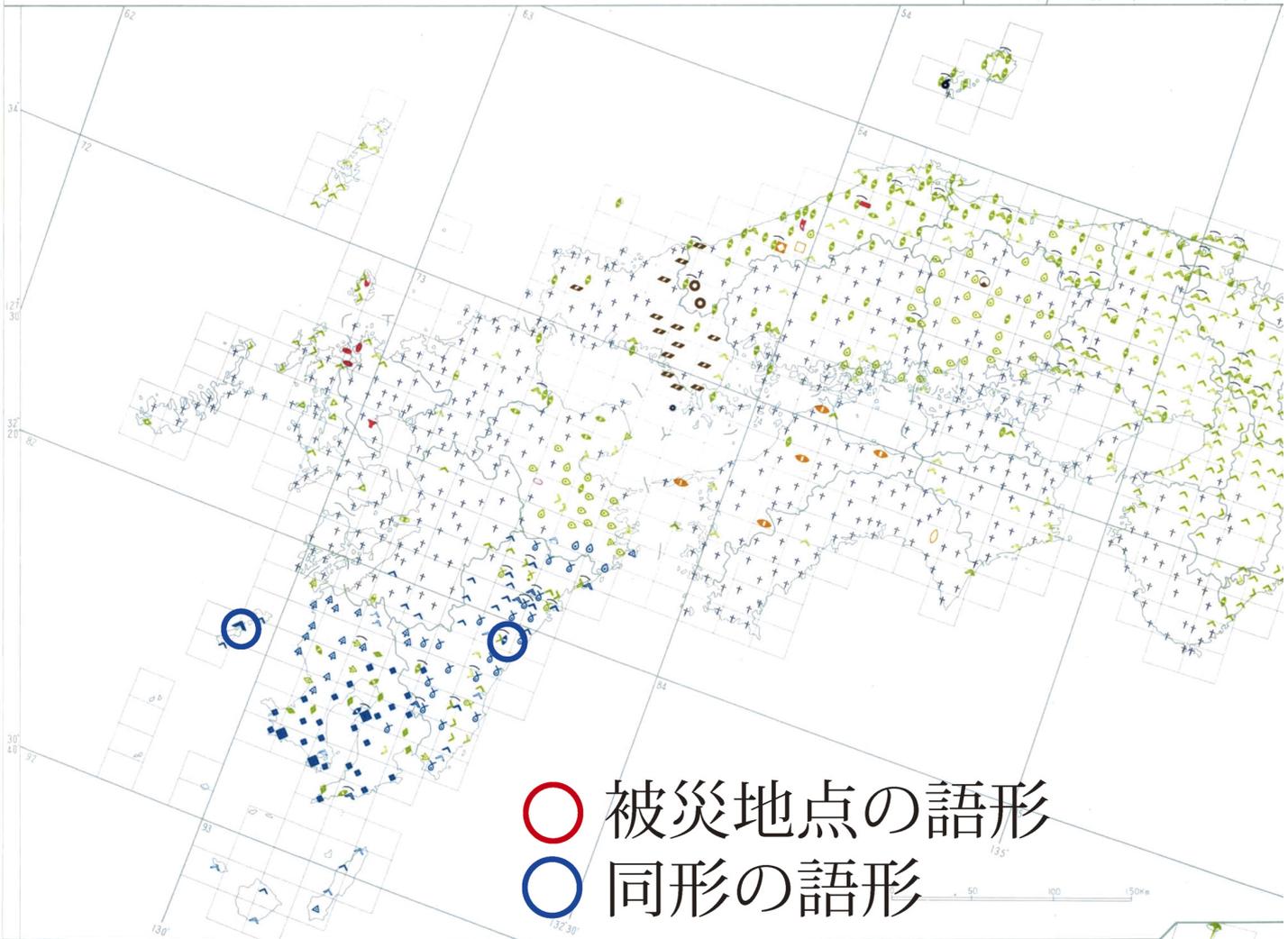
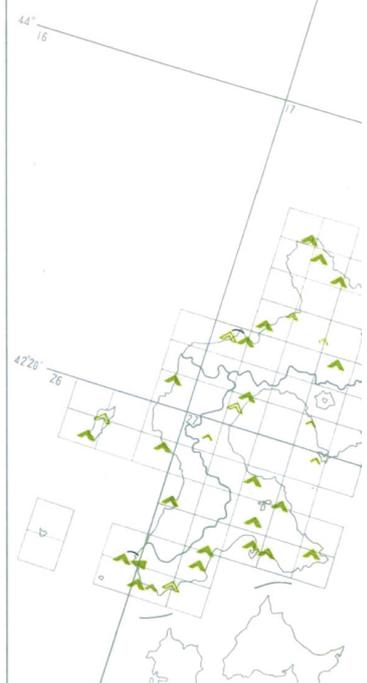


245 きのこ (茸・蕈)

87

せき(咳)をする—前部分 to cough (object) ②Bの例

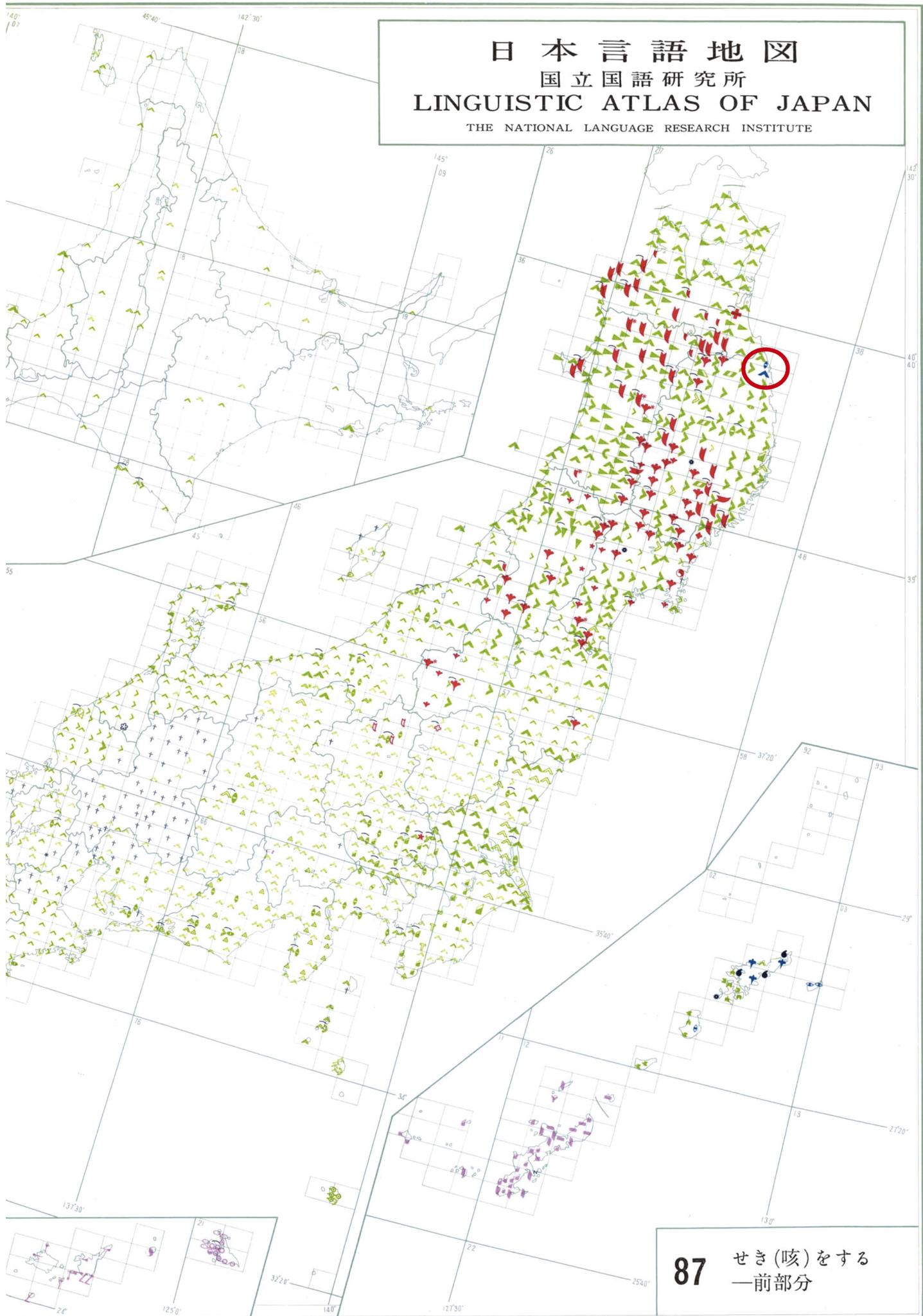
- | | | | | | |
|------------|------------|------------|---------------|-------------|------------------------------|
| ▲ SEKIO— | ▼ SYEGGA— | ▲ SĒĒ— | ○ SUWAMUKIO— | □ TAGURIO— | ✿ ISAKOO— |
| ▷ SYEKIO— | ▼ SEKINO— | ▼ SYEE— | ▼ SIWABUKIGA— | ○ KOTAGORIO | ✿ ISAKU— |
| ▲ SEGIO— | ▼ SYEKINO— | ◊ SYESIO— | ● SIWABUKI— | □ TAGURIGA | ○ ISAKI— |
| ▷ SYEGIO— | ▼ SEKIN— | ◊ SEKUO— | ● SIWAMUKI— | ◊ TAGORIGA— | ○ ISUKU— |
| ▼ SEKKIO— | ▼ SEKII— | ◊ SYEKO— | ■ SIWAKI— | | ✿ SISAKU— |
| ▷ SIKIO— | ▼ SYEKII— | ◊ SEKU— | ▼ SYABUKIO— | ✿ SAKKWII— | ☆ GAIKIO— |
| ▲ SEKYOO— | ▼ SEGII— | ▼ SYEKU— | ▼ SABUKIO— | ▼ HAKKWII— | ● TANGA— |
| ▷ SYEKYOO— | ▼ SYEGII— | ↑ SUTI— | ◊ SYABOKIO— | ■ SAKUI— | ● TAN— |
| ▲ SEKYO— | ▲ SEKI— | | ▼ SABUKIGA— | ■ SAHUI— | |
| ▷ SYEKYO— | ▷ SYEKI— | ▲ IKIO— | ▼ SABUGIA— | ▼ SAKKUI— | |
| ○ SIKYO— | ▲ SEGI— | ▲ IKYOO— | ▼ SIYABUKI— | ▼ SAKKWI— | ● その他 other forms |
| ○ SEKYUU— | ▷ SYEGI— | ▲ IKYO— | ▼ SYABUKI— | ▼ SAKKOI— | † 前部分がない without object |
| ○ SYEKYUU— | ↑ SEKKI— | ○ IKYUU— | ▼ SYABUGI— | ▼ SAAKOI— | ★ 後部分がない without verbal part |
| ▼ SEKYU— | ▲ SEEKI— | ▼ IKYU— | ▼ SABUKI— | ▼ SUKKWAI— | ※ 無回答 no response |
| ○ SYEKYU— | ▼ SIGI— | ▼ IKIGA— | ▼ SABUGI— | ∠ SAKOO— | |
| ▲ SEKIBA— | ▼ HEKI— | ▼ IGGA— | ▼ SAMUGI— | ∠ SAAGOO— | |
| ▼ SYEKIBA— | ▼ HEGI— | ▼ IKIN— | ★ SYABIKI— | ∠ ZAAKUBA— | |
| ▼ SYEBBA— | ▼ HYEGI— | ▼ ICIN— | ◆ SYABIGI— | — SAGU— | |
| ▼ SEKIA— | ▼ HWEGI— | ▲ IKI— | ◆ SABOGI— | ↑ SAAKU— | |
| ▼ SYEGIA— | ▼ HIKI— | ▲ IGI— | ○ SYABURU— | ↓ SAAHU— | |
| ▼ SEKIGA— | ▼ HIGI— | ◆ IKU— | | → SAAGU— | |
| ▼ SYEKIGA— | ▼ SEHIO— | ◆ IGU— | ○ KOCUU— | ∠ SAKO— | |
| ▼ SEGIGA— | ▼ SEHĒ— | ↑ IKIGIRI— | ○ KOCURIGA— | ○ ISAKUU— | |
| ▼ SEGGA— | ▼ SYEHĒ— | | ○ KOCUGA— | ○ ISAGUU— | |



○ 被災地点の語形
 ○ 同形の語形

質問文：かぜをひいたときなどに、のどを痛めて（ごほんごほんたまねをする）とすることがあります。こうすることをどう
 すると言いますか。(055)

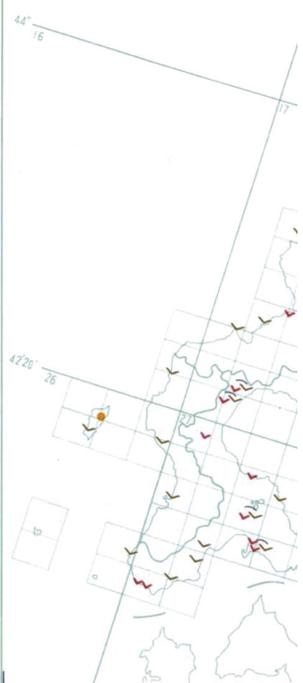
日本言語地図
 国立国語研究所
 LINGUISTIC ATLAS OF JAPAN
 THE NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE



87 せき(咳)をする
 一前部分

215 とさか (鶏冠) comb (of the rooster) ②Cの例

- | | | | | | |
|--------------|--------------|-------------|--------------------|-----------------|------------|
| ▼ SAKA | ○ TORIKASA | 6 KAMUTO | ▼ KAGAN | ▼ BE(E)RA | ▼ TONBO |
| ▲ SYAKA | ○ TOKKASA | 6 KANTO | ▼ KANGAN | ▼ BERABERA | ▼ TO(O) |
| ✕ SYAKO | ○ TOKKESA | 7 TOKIN | ▼ TUINUHAGAN | ▼ BERO | ▼ YAMA(KO) |
| ✕ SYOGA | ○ TOKKESI | 7 TOKKIN | ▼ KOOMIN | ▼ BETTOO | ▼ YAMAGATA |
| ▲ TORISAKA | ○ TOKKECI | 7 KINTOKI | ▼ KANAN | ▼ BIDENKO | |
| ▲ TOCUSAKA | ○ TOKASA | 7 TONKE | ▼ KANIN | ▼ BIKO | |
| ▼ TOSSAKA | ○ TOKESA | 7 CUNKE | ▼ KANNEE | ▼ BIRE(NKO) | |
| ▼ TOCCAK(K)A | ○ TOKUSA | 7 TONKIN | ▼ KANGI | ▼ BIRI | |
| ▼ TOCCYAKA | ○ TOKARI | 7 TONZIN | ▼ HANGI | ▼ BIROO | |
| ▼ TOSSAKO | ○ TOKAKE | 7 SYOKKIN | ▼ KANZI | ▼ CIRIMEN | |
| ▼ TOSSAKI | ○ TOKYAKA | 7 KIN | ▼ KANZYU | ▼ GIBISI | |
| ▼ TOC(C)AKE | ○ KECYAKA | 7 KINKIRA | ▼ HANZYU | ▼ HANA(KO) | |
| ▼ TOTOSAKA | ○ KECC(Y)AKA | 7 KEN | ▼ KANZU | ▼ ITADAKI | |
| ▼ TOSAKA | ○ KECCYAKU | 7 KENKE(N) | ▼ SAN | ▼ KANOKO | |
| ▼ TOZAKA | ○ KECCYAKU | 7 KENTO(O) | ▼ KE(E)TO(O) | ▼ KEK(K)ERO(KO) | |
| ▼ TOCAK(K)A | ○ KECCYAKI | 7 KENKO | ▼ KECCUU | ▼ KESIBA | |
| ▼ TOZUKA | | 7 KAN | ▼ KETOKI-KE(E)TOGI | ▼ KIMO | |
| ▼ TOSAKEE | | 7 KANTAA | ▼ KETOKE-KE(E)TOGE | ▼ MO(O)CI | |
| ▼ CUSAKA | | 7 KAAAN | ▼ KIDONI | ▼ NACCAE | |
| ▼ TOSA | | 7 TUNNUHAAN | 6 KABUTONABA | ▼ NACCAKI | |
| ▼ TOCU | | 7 KAGAMI | 6 NABA | ▼ SAZU | |
| ▼ TOCYO | | 7 HAGAMI | ▼ KINOKO | ▼ SEKIREE | |
| | | 7 KAGAMII | ▼ TOSAKANOKINOKO | ▼ TABU | |
| | | 7 KAGAMII | ★ KIKURAGE | ▼ TANZYEN | |
| | | 7 KAGAAMII | ★ KIKU | ▼ TOGE | |
| | | 7 KAGANI | △ KOKERA | | |
| | | 7 HAGANI | | | |
- 無回答 no response

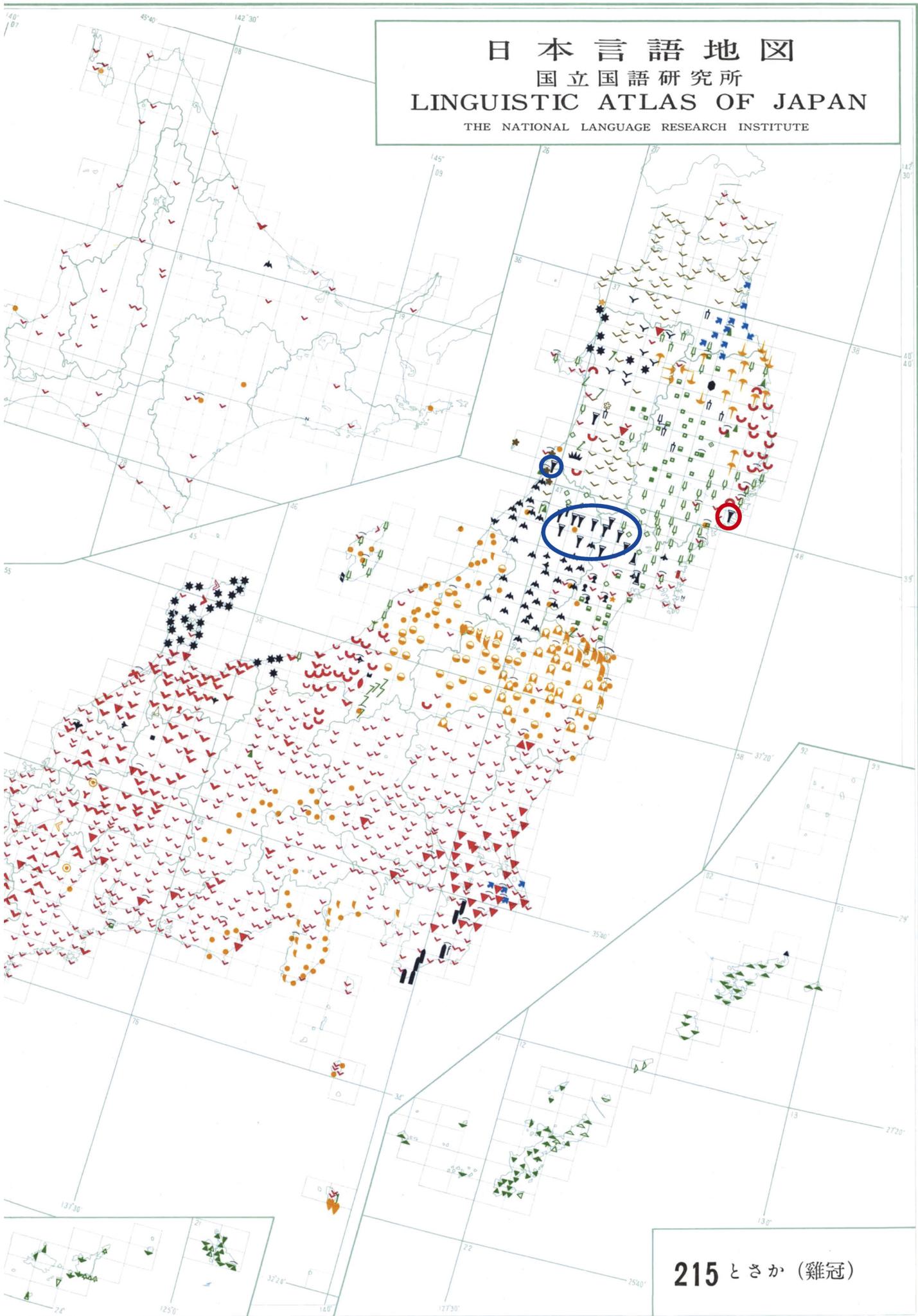


○ 被災地点の語形
 ○ 同形の語形

質問文：にわたりの頭の上にある赤いもの、これを何と言いますか。おんどりのはめんどりに比べて大きいようです。(230)



日本言語地図
国立国語研究所
LINGUISTIC ATLAS OF JAPAN
THE NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE



215 とさか (雞冠)

別表A. 被災地域の分布における特徴的な語形 (L A J) 一覧

地図 数	地図 番号	見出し語形	語形	類型	地点数	都道府県	「市」以下の所在地
1	21	あらい(粗い)	USUI	①B	1	宮城県	気仙沼市内の脇町
2	24	ほそい(細い)	HOSOKEE HOSOKI	①B ①B	2 3	宮城県 宮城県	石巻市長面 南三陸町歌津馬場
3	25	こまかい(細かい)	ACUI	①B	4	宮城県	気仙沼市内の脇町
4	30	まぶしい(眩しい)-前部分	EZUI CURACURACUU	①B ①B	5 6	福島県 岩手県	南相馬市原町区上太田 陸前高田市高田町
5	34	きなくさい(きな臭い)-前部分	KENBU-	②B	7	宮城県	南三陸町歌津馬場
6	35	きなくさい(きな臭い)-後部分	GUSAI GUSAI GUSAI GUSAI	②C ②C ②C ②C	8 9 10 11	宮城県 青森県 岩手県 岩手県	亶理町荒浜 階上町道仏 洋野町種市町 洋野町横手
7	36	こげくさい(焦げ臭い)	KOBICUKEKUSAI	②C	12	宮城県	石巻市門脇町
8	38	<塩味が>うすい	MIZUKUSAI	②B	13	宮城県	南三陸町歌津馬場
9	48	きれいに<掃除する>	RIPPANI RIPPANI	②C ②C	14 15	宮城県 宮城県	気仙沼市内の脇町 石巻市長面
10	51	すわる(坐る)	OHIZA SURU	②B	16	福島県	いわき市小名浜下神白
11	57	たく(炊く)	NITAKISURU	①B	17	宮城県	気仙沼市内の脇町
12	67	かつぐ(天秤棒を担ぐ)	NINAI	②B	18	宮城県	七ヶ浜町松ヶ浜町
13	68	かつぐ(二人でかつぐ)	SASIKACUGI(SURU) SASIMOCCHI	②B ②B	19 20	宮城県 宮城県	石巻市長面 岩沼市押分
14	80	あざ(痣)になる	KUROZI NI SINDA KUROZI NI SINDA	②B ②B	21 22	岩手県 岩手県	宮古市第17地割 大槌町桜木町
15	82	くすぐる(撻る)-後部分	KACCYAKU	①B	23	岩手県	石巻市長面
16	87	せき(咳)をする-前部分	IKIGA	②B	24	岩手県	洋野町種市町
17	88	せき(咳)をする-後部分	KIRERU	①A	25	岩手県	洋野町種市町
18	90	いびき(鼾)をかく-後部分	NARASU	②B	26	岩手県	洋野町種市町
19	95	<雷が>落ちる	TOGERARERU	①B	27	宮城県	七ヶ浜町松ヶ浜町
20	102	つむじ	UZIMAKI	①B	28	岩手県	大槌町桜木町
21	105	ふけ	OROKO	②C	29	宮城県	七ヶ浜町松ヶ浜町
22	108	あご(尖った部分)	KAGAMETA KAMAGETA	②A ②A	30 31	青森県 岩手県	階上町道仏 洋野町種市町
23	109	あご(全体)	KANGAMETA	①A	32	岩手県	洋野町種市町
24	116	くちびる	KUCIPASI	②B	33	青森県	階上町道仏
25	121	おやゆび	OOEBI	①A	34	宮城県	七ヶ浜町松ヶ浜町
26	140	やしやご	HIKO	②A	35	岩手県	洋野町種市町
27	141	おじいさん	MAMA MAMA	①B ①B	36 37	青森県 岩手県	階上町道仏 洋野町種市町
28	142	ひいおじいさん	HAGU HAGU	①A ①A	38 39	青森県 岩手県	階上町道仏 洋野町種市町
29	143	たこ	TAKE	②A	40	福島県	双葉郡双葉町新山
30	144	たけうま	ASIKAKE TAKAGETA	①B ②B	41 42	岩手県 宮城県	大槌町桜木町 石巻市長面
31	145	おてだま	OANZUKI GAKE	①A ①A	43 44	岩手県 宮城県	大船渡市三陸町 亶理町荒浜
32	147	おにごっこ	ONIKAENA ONIKOKKO	①A ②C	45 46	宮城県 福島県	七ヶ浜町松ヶ浜町 檜葉町上繁岡
33	148	かくれんぼ	KAKURE	①B	47	宮城県	七ヶ浜町松ヶ浜町
34	149	かたぐるま	DENDENKAKKA CYOSA TANTANDON	①B ②B ①A	48 49 50	岩手県 宮城県 福島県	陸前高田市高田町 女川町鷺の神浜 いわき市小名浜下神白
35	152	おつり	OGEESt	①A	51	福島県	南相馬市原町区上太田
36	156	もめんいと	NUITO MENSIIITO MENSO	②C ②A ②A	52 53 54	岩手県 宮城県 福島県	陸前高田市高田町 気仙沼市内の脇町 いわき市小名浜下神白
37	157	はたいと	MOMEN'ITO	②A	55	岩手県	宮古市第17地割
38	161	せともの	SETOYAKI	①A	56	宮城県	亶理町荒浜
39	162	すりばち	KAARABACt	①B	57	福島県	いわき市小名浜下神白
40	163	すりこぎ	MiSOSiRiBOOZi SiRiKOG[ng]iBO MENSO SURiG[ng]i	①A ①A ①B ①A	58 59 60 61	青森県 岩手県 岩手県 福島県	階上町道仏 洋野町種市町 大船渡市三陸町 南相馬市原町区上太田
41	164	まないた	SAKANAKIRIBAN USUPA(野菜用)	①B ①A	62 63	福島県 福島県	南相馬市原町区上太田 いわき市小名浜下神白

地図 数	地図 番号	見出し語形	語形	類型	地点数	都道府県	「市」以下の所在地
42	165	こめびつ	RYOOMAIBICU	②B	64	岩手県	大船渡市三陸町
			KOMEIRE	②B	65	福島県	南相馬市原町区上太田
			KOMEIREBAKO	①A	66	福島県	いわき市小名浜下神白
43	166	こめびつ	KODASIBAKO	①A	67	宮城県	亶理町荒浜
44	175	じゃがいも	CURUGAIMO	①B	68	岩手県	大槌町桜木町
45	177	さといも	NURAIMO	①A	69	岩手県	大槌町桜木町
46	183	とうがらし	KOSYO	①B	70	福島県	南相馬市原町区上太田
47	187	あぜ	OONA	②B	71	岩手県	宮古市第17地割
			KOOCI	①B	72	宮城県	気仙沼市内の脇町
			KEEHAN	①B	73	宮城県	亶理町荒浜
48	189	とりおとし	KAWAKAG[ng]ASU	①A	74	岩手県	大槌町桜木町
49	198	もり	KAKOI	①B	75	福島県	南相馬市原町区上太田
			EGUNE	①B	76	福島県	浪江町屋曽根字屋曽根
50	201	うま(馬)	DODO	①A	77	岩手県	宮古市第17地割
			DAADAA	①A	78	岩手県	宮古市田老
53	203	めうま(牝馬)	MEBA	②A	79	岩手県	女川町鷺の神浜
51	207	おうし(牡牛)	DO	①A	80	宮城県	石巻市門脇町
52	208	めうし(牝牛)	HIMBA	①A	81	岩手県	宮古市第17地割
			SIN	①A	82	宮城県	石巻市門脇町
53	209	こうし(子牛)	KOTEE	②A	83	岩手県	宮古市第17地割
54	210	もうもう(牛の鳴き声)	NMAA NMA	②A	84	宮城県	亶理町荒浜
55	212	ふくろう(梟)	HUKUROODORI	①A	85	福島県	南相馬市原町区上太田
56	213	せきれい(鶺鴒)	MISO	②C	86	岩手県	大船渡市三陸町
57	214	すずめ(雀)	HEESUZUME	①A	87	岩手県	洋野町種市町
58	215	とさか(鶏冠)	YAMA(KO)	②C	88	岩手県	大船渡市三陸町
59	216	さかな(魚)	※	②C	89	岩手県	宮古市第17地割・大槌町桜木町
60	218	かえる(蛙)	BIKITA(N)	②A	90	岩手県	岩泉町茂師
			BIKITA(N)	②A	91	岩手県	宮古市第17地割
61	219	ひきがえる(蟷螂)	HUKUDAGAERU	②B	92	宮城県	亶理町荒浜
62	226	へび(蛇)	KUCINAWA	②A	93	宮城県	気仙沼市内の脇町
63	232	はえ(蠅)	HEENOKO	①A	94	岩手県	宮古市第17地割
			HWEN[φ ε N]	①A	95	宮城県	七ヶ浜町松ヶ浜町
64	234	くものす(蜘蛛の巣)	AMI	②C	96	宮城県	宮古市門脇町
65	236	かたつむり(蝸牛)-その1	NAMEKUZINA	①A	97	岩手県	種市町八木一地割
			※2	②A	98	岩手県	宮古市第17地割・大槌町桜木町
66	237	かたつむり(蝸牛)-その2	CUBU	②A	99	岩手県	宮古市第17地割
			CUNAME	①A	100	岩手県	大船渡市三陸町
			MENMENTABAKURO	①A	101	宮城県	石巻市門脇町
67	239	なめくじ(蛞蝓)	DEERO	②A	102	福島県	双葉郡双葉町新山
68	240	すみれ(菫)	KANKOBANA	②B	103	岩手県	宮古市第17地割
69	243	すぎな(杉菜)	ZIGOKUGUSA	②A	104	岩手県	岩泉町茂師
70	244	つくし(土筆)	SINANOMOE	①A	105	青森県	階上町道仏
71	245	きのこ(茸・蕈)	SUNANOTANPO	①A	106	岩手県	洋野町種市町
72	247	まつかさ(松球)	KAK(K)(E)(E)RO(O)	②A	108	岩手県	洋野町種市町
73	254	つゆ(梅雨)	ZIPPUGURE	①A	109	岩手県	陸前高田市高田町
74	259	にじ(虹)	NOGI	①A	110	宮城県	気仙沼市内の脇町
75	261	こおり(氷)	ZEE	②C	111	岩手県	宮古市第17地割
			ZEE	②C	112	宮城県	気仙沼市内の脇町
76	262	つらら(氷柱)	AWABO	①A	113	青森県	階上町道仏
77	271	ほこり(埃)	GOBEE	①A	114	福島県	双葉郡檜葉町
78	278	きのう(昨日)	KIN'YOO	①A	115	岩手県	宮古市第17地割
			K[kç]INYONA	①A	116	宮城県	岩沼市押分
79	280	きょう(今日)	KIYO	①A	117	岩手県	洋野町種市町
80	285	しあさって(明後日)	SIASATTE	②C	118	岩手県	洋野町種市町
			SAAASATTE	②A	119	岩手県	宮古市田老
			SAANSATTE	①A	120	岩手県	宮古市第17地割
81	298	ほうほう(梟の鳴き声)	GIIGII	①A	121	岩手県	陸前高田市高田町
			NYA(A)NYA(A)	②A	122	宮城県	亶理町荒浜
82	300	ちゅんちゅん(雀の鳴き声)	KIKKARAKIKKADAKA	①A	123	岩手県	宮古市第17地割
			CUICUI	①A	124	宮城県	女川町鷺の神浜
			ZURUNZURUN	①A	125	宮城県	岩沼市押分
			CIYOCIIYO	①A	126	福島県	浪江町屋曽根字屋曽根

※：総称はSAKANAと言い、UOは標準語的な場合に使う

※2：237図のCU(N)MURIからCUNMOまで

別表 B. 被災地域の分布における特徴的な語形 (G A J) 一覧

地図数	地図番号 見出し[調査票質問番号]	危機語形	類型	語No	都道府県	「市」以下
1	第4図 酒が(飲みたい)[116]	GA	②B	1	岩手県	田野畑
		GA	②B	2	岩手県	山田
		(SAKEE)	②B	3	岩手県	宮古
2	第5図 酒が(好きだ)[117]	A	②B	4	岩手県	階上
		A	②B	5	岩手県	山田
		(SAKEE)	②B	6	岩手県	宮古
		GA	②B	7	岩手県	田野畑
		(SAKEE)	②B	8	岩手県	宮古
3	第6図 酒を(飲む)[118]	(SAKEE)	②B	8	岩手県	宮古
4	第7図 おれを(連れて行ってくれ)[115]	NDOGOMO	①A	9	岩手県	釜石
5	第12図 酒は(飲む)[119]	DAKE	①A	10	岩手県	釜石
		(SAKJAA)	②B	11	岩手県	宮古
		(SAKJAA)	②B	12	岩手県	階上
6	第14図 先生の(手拭)[104]	(SENSEE)	②B	13	宮城県	亘理
7	第17図 行くのでは(ないか)[143]	DOGODE	①B	14	岩手県	山田
8	第23図 大工に(なった)[112]	N	②B	15	宮城県	気仙沼
9	第26図 息子に(手伝いに来てもらった)[122]	N	②B	16	宮城県	志津川
11	第27図 犬に(追いかけられた)[124]	SA	①B	17	福島県	小高
12	第31図 それより(あの方が良い)[140]	IZJOO	①A	18	岩手県	釜石
13	第33図 (雨が)降っているから[095]	KEENI	②B	19	岩手県	宮古
		KEE	②B	20	岩手県	山田
14	第34図 だから(言ったじゃないか)[096]	SOREDAA-	②B	21	岩手県	宮古
		NDAQ-	②B	22	岩手県	山田
		SONDAQ-	②B	23	岩手県	山田
		SIKEENI	②B	24	岩手県	宮古
15	第35図 だから(言ったじゃないか)[096]	KEE	②B	25	岩手県	山田
		KEE	②B	25	岩手県	山田
16	第36図 子どもなので(わからなかった)[141]	NAMONDA	①A	26	福島県	小高
		TA	①B	27	岩手県	田野畑
17	第37図 子どもなので(わからなかった)[141]	MONO	①B	28	岩手県	階上
		MONO	①B	29	岩手県	釜石
		KEE	②B	30	岩手県	山田
		KEE	②B	31	岩手県	宮古
18	第40図 植えたのに(枯れてしまった)[097]	KEE	②B	31	岩手県	宮古
19	第42図 買物が(てら)見物する[109]	(KAUNAGARA)	②B	32	宮城県	亘理
20	第46図 子どもでも(知っている)[142]	SEKAMO	①A	33	岩手県	釜石
21	第47図 皮だけ(食べた)[131]	BEE	②B	34	岩手県	山田
22	第48図 (食って)寝るだけなら[130]	BAGARI	②B	35	宮城県	気仙沼
		BEE	①B	36	岩手県	宮古
		BEE	①B	37	岩手県	山田
23	第50図 百円くらい(使った)[136]	BAKARI	②B	38	福島県	いわき市植田
		BAGARI	②B	39	宮城県	志津川
24	第51図 百円しか(ない)[137]	HATTE	①B	40	岩手県	田野畑
		KIRIHOKA	①A	41	岩手県	釜石
25	第54図 傘なんか(いらぬ)[139]	BA	①B	42	青森県	八戸
		(KASAADOA)	①B	43	岩手県	階上
26	第55図 安ければ安いほど(良い)[138]	GUREE	①B	44	宮城県	気仙沼
		KUREE	①B	45	宮城県	志津川
27	第56図 何が(起こる)やら(わからない)[125]	DABEENA	①A	46	岩手県	宮古
28	第57図 誰やら(来た)[126]	DAREDANDAGA	①B	47	岩手県	階上
29	第58図 筆やら紙やら(たくさんもらった)[127]	TO(KAMI)	②B	48	福島県	小高
30	第59図 行く(だ)の行かない(だ)の(ぐずぐず言うな)[144]	TTARI-TTARI	②B	49	岩手県	田野畑
		(IKU)-TTE	②B	50	宮城県	気仙沼
		(IKU)-TTE	②B	51	宮城県	志津川
		NODAGA-NDAGA	②B	52	宮城県	女川
		NDAGA-NDAGA	②B	53	宮城県	亘理
		GA-GA	②B	54	宮城県	石巻
31	第60図 今日こそ(終わらせる)[146]	A	①B	55	青森県	八戸
32	第61図 起きる	OGERU	②B	56	岩手県	田野畑
33	第66図 寝る	UNERU	①A	57	宮城県	石巻
34	第82図 蹴らない	KETAGUNEE	①B	58	宮城県	女川
35	第89図 蹴れ	KETTAGURE	②B	59	岩手県	山田
		KETTAGURE	②B	60	宮城県	気仙沼
		KETTAGURE	②B	61	宮城県	志津川
		KETTAKURE	②B	62	宮城県	女川
		KETTAGURE	②B	63	宮城県	石巻
36	第104図 蹴った	KETAGUTTA	②B	64	宮城県	石巻
		KETAGUTTA	②B	65	宮城県	女川
		KETAKUTTA	②B	66	宮城県	女川
37	第106図 起きよう	OGELEE	①A	67	岩手県	田野畑
38	第108図 寝よう	NENAKKENEENAA	①A	68	岩手県	釜石
		NENAKUTEWAWAGANNE	①A	69	宮城県	気仙沼
39	第109図 書こう	KAGANEKKEENEENAA	①A	70	岩手県	釜石
		KAGANAKUTEWAWAGANNE	①A	71	宮城県	気仙沼

地図数	地図番号 見出し[調査票質問番号]	危機語形	類型	語No	都道府県	「市」以下
40	第110図 来よう	KONENEKKEENEA KONAGUTEWAWAGANNE	①A ①A	72 73	岩手県 宮城県	釜石 気仙沼
41	第111図 しよう	SINEKKEENEA SINAKUTEWAWAGANNE	①A ①A	74 75	岩手県 宮城県	釜石 気仙沼
42	第112図 書くだろう	KAKUNDABEE	①A	76	宮城県	亶理
43	第113図 来るだろう	KUPPEDARA KURUNDABENAA SURUNDABENAA	①A ②B ②B	77 78 79	岩手県 宮城県 宮城県	釜石 亶理 亶理
44	第116図 来られると	KERARETEMO KURARENNOGA	①A ①A	80 81	岩手県 宮城県	釜石 女川
45	第117図 される	SURARERU	①A	82	宮城県	女川
46	第120図 来させる	KURASERU	②C	83	宮城県	女川
47	第121図 させる	SURASERU	②B	84	宮城県	亶理
48	第124図 書かせよう	KAGASENEKKEENEA KAGASENAKUTEWAWAGANNE	①A ①A	85 86	岩手県 宮城県	釜石 気仙沼
49	第127図 任せれば	MAGASEDARA MAGASEDARA	②B ②B	87 88	宮城県 宮城県	気仙沼 石巻
50	第128図 書けば	KAIDARA KAIDARA	②B ②B	89 90	宮城県 宮城県	気仙沼 石巻
51	第129図 死ねば	SINDARA SUNDARA SINDARA	②B ②B ②B	91 92 93	宮城県 宮城県 宮城県	気仙沼 志津川 石巻
52	第130図 来れば	SINDARA KIDARABA SINDARA	②B ①A ②B	94 95 96	宮城県 宮城県 宮城県	気仙沼 石巻 石巻
53	第131図 すれば	SITARA	②B	97	宮城県	石巻
54	第133図 書くなら	KAGUGONDA	①A	98	福島県	相馬
55	第142図 高いだろう	TAGEENDENEEGA TAGAKAPPEE TAGAKAPPEE TAGAKAPPEE	①B ①B ①B ①B	99 100 101 102	宮城県 福島県 福島県 福島県	気仙沼 楡葉 いわき市久之浜 いわき市植田
56	第143図 高ければ	TAGAGATTARA TAGEGATTARA	②B ②B	103 104	宮城県 宮城県	気仙沼 石巻
57	第144図 高いなら	TAGEGERJAA	②B	105	宮城県	亶理
58	第145図 静かだ	SEZUNEE URUSEE SUNTOSUTENE	①B ②B ①A	106 107 108	宮城県 青森県 青森県	女川 八戸 八戸
59	第149図 静かだろう	SUNZUKADENEEGA SIZUGADENEEGA URUSAGUNEGOTTA	②B ②B ②B	109 110 111	宮城県 宮城県 青森県	亶理 気仙沼 八戸
60	第150図 静かなら	SUZUKANANDAGOTTARA SUZUKADEEBA SIZUGANANDEA URUSAGUNENODARA	①A ①B ①A ①B	112 113 114 115	宮城県 岩手県 宮城県 青森県	亶理 田野畑 気仙沼 八戸
61	第151図 行かなかった	EGANEDESIMATTA	②A	116	岩手県	釜石
62	第154図 行かないなら	EGANEKKA EGANEKKA EGANEKKA EGANEKKA	①B ①B ①B ①B	117 118 119 120	福島県 福島県 福島県 福島県	いわき市久之浜 楡葉 小高 いわき市植田
63	第155図 行かないで	EGANEDEGARANI	①A	121	岩手県	釜石
64	第156図 行かなくて	IGANEENDE	①B	122	宮城県	気仙沼
65	第159図 高くはなかった[202]	TAGEEMONDEA	①A	123	岩手県	田野畑
66	第161図 見はしない	MIIMOKKA	②B	124	岩手県	階上
67	第162図 来はしない	KURUGOTOANEE KUGGODOANEE	②B ②B	125 126	岩手県 岩手県	山田 山田
68	第163図 うん、無いよ[204]	INJA EJA NEEGAJA	②B ②B ②B	127 128 129	岩手県 宮城県 岩手県	宮古 亶理 宮古
69	第165図 いや、有るよ[205]	N HONDAA	②B ①A	130 131	福島県 宮城県	小高 気仙沼
70	第166図 いや、有るよ[205]	ANGAJA ANSA ATTO	②B ①A ②C	132 133 134	岩手県 岩手県 宮城県	宮古 田野畑 石巻
71	第167図 降れば(船は出ないだろう)	HUTTADOGI	②B	135	宮城県	志津川
72	第168図 降ったら(おれは行かない)	HUTTADOGI	②B	136	宮城県	志津川
73	第169図 行くと(だめになりそうだ)	I(E)TTAKKE I(E)TTAKKE I(E)TTAKKE I(E)TTAKKE	①B ①B ①B ①B	137 138 139 140	宮城県 宮城県 宮城県 宮城県	志津川 気仙沼 女川 石巻
74	第172図 行っただけだ[181]	HJANEE SJOOGANEE	①B ①B	141 142	宮城県 岩手県	石巻 宮古
75	第173図 読むことができる[能力可能]	YOKUGODOGADENGA KIEERUJO	①B ②C	143 144	岩手県 岩手県	宮古 田野畑
76	第178図 来ることができる[状況可能]	KUGGODOGADENGA	①B	145	岩手県	宮古
77	第179図 することができる[能力可能]	SUGGODOGADENGA	①B	146	岩手県	宮古

地図 数	地図番号 見出し[調査票質問番号]	危機語形	類型	語No	都道府県	「市」以下
78	第185図 着ることができない[状況可能]	KIRUGODADENEE	①B	147	岩手県	宮古
		KIENEE	②B	148	岩手県	山田
		KIENEE	②B	149	岩手県	釜石
		KIINEE	②B	150	宮城県	気仙沼
79	第189図 行ったなあ[224]	GANAA	②B	151	岩手県	宮古
80	第191図 いたよ[225]	MONODA	②A	152	岩手県	山田
		ZOO	①B	153	岩手県	釜石
		MONNAA	②B	154	宮城県	気仙沼
		NDATTA	②A	155	宮城県	亶理
81	第193図 書いたよ[227]	ZOO	①B	156	岩手県	釜石
		DEBA	①B	157	宮城県	志津川
82	第194図 強かったよ[226]	TACCEE	①A	158	岩手県	田野畑
83	第195図 強かったよ[226]	ZOO	①B	159	岩手県	釜石
		DJOO	②B	160	岩手県	階上
		HUTOGAEDA	②B	161	岩手県	田野畑
		ZEE	②B	162	宮城県	気仙沼
		NDANAA	①B	163	宮城県	石巻
		NDANAA	①B	164	宮城県	亶理
		EDATTAGANAA	①A	165	岩手県	田野畑
84	第196図 いた	EDATTAGANAA	①A	165	岩手県	田野畑
		ORJANSUDAGA	①A	166	岩手県	山田
85	第197図 いるか	ORUKAAI	②B	167	岩手県	宮古
		SITERA	②B	168	岩手県	釜石
86	第202図 有りヨル[進行態]	SITERA	②B	168	岩手県	釜石
87	第204図 もう少しで落ちるところだった[235]	OZINBEESSITA	①B	169	岩手県	階上
		OZUTTOSUTA	①B	170	宮城県	志津川
88	第205図 読んでしまった	JOMISUNDAA	②B	171	岩手県	田野畑
		JOMIAGETA	②A	172	宮城県	亶理
89	第207図 行かなければならない[154]	WAGANNEE	①B	173	宮城県	亶理
		WAGANNEE	①B	174	宮城県	気仙沼
90	第208図 行かなければならない—総合図—	-NAKUTEWAWAKARANEE	①B	175	宮城県	亶理
		-NAKUTEWAWAKARANEE	①B	176	宮城県	気仙沼
91	第209図 起きろ(やさしく)—その1—	OGISAEN	①B	177	宮城県	志津川
92	第210図 起きろ(やさしく)—その2—	OGIRAINJOO	①B	178	宮城県	気仙沼
		OKIRAIN	①B	179	宮城県	石巻
93	第211図 起きろ(やさしく)—総合図—	OGISAEN	①B	180	宮城県	志津川
		OGIRAINJOO	①B	181	宮城県	気仙沼
		OKIRAIN	①B	182	宮城県	石巻
		OKIRUNDA	①B	183	福島県	相馬
94	第213図 起きろ(きびしく)—その2—	OGEDEKOO	②C	184	岩手県	田野畑
		OGINEENOSUKA	①B	185	宮城県	気仙沼
		OGIRAIN	①B	186	宮城県	気仙沼
		OGIGARE	②B	187	宮城県	亶理
		OKINETODAMEDAZO	②B	188	福島県	檜葉
		OKIRAIN	①B	189	宮城県	気仙沼
95	第214図 起きろ(きびしく)—総合図—	OKIRAIN	①B	189	宮城県	気仙沼
		OKIJAGARE	②B	190	宮城県	亶理
		OKITEKOI	②B	191	岩手県	田野畑
		OKINATODAME—	②B	192	福島県	檜葉
96	第215図 開けろ(やさしく)—その1—	AKETEKENEKANA	②A	193	宮城県	気仙沼
		AGETEKESAN	①B	194	宮城県	志津川
		AKETEKRAIN	①B	195	宮城県	石巻
97	第218図 開けろ(きびしく)—その1—	AGESE	①A	196	宮城県	志津川
98	第220図 開けろ(きびしく)—その3—	AKENENOSSA	①A	197	宮城県	気仙沼
		AKENENOSUKA	①A	198	宮城県	気仙沼
		AKERAIN	①B	199	宮城県	気仙沼
99	第222図 行くなよ(やさしく)[151]	AGENENOKA	②C	200	宮城県	女川
99	第222図 行くなよ(やさしく)[151]	NA	②C	201	福島県	相馬
100	第223図 行くなよ(きびしく)[152]	ETTEWAWAGARIGANNEE	①B	202	宮城県	亶理
101	第234図 行くまい	EGUMONKA	②C	203	岩手県	階上
		EGUMONGA	②C	204	岩手県	山田
		EGANGABEEDOMMODERU	①A	205	岩手県	山田
102	第223図 行くなよ(きびしく)[152]	IGANEBE—	①A	206	宮城県	石巻
103	第237図 行くだろう	EGUNDABEENAA	②C	207	岩手県	山田
		EGUNDABEE	②C	208	宮城県	亶理
104	第241図 降りそうだ	HURUJOODA	①B	209	宮城県	亶理
105	第243図 雨だそうだ—その1—	AMEDAJOODANAA	②C	210	岩手県	宮古
106	第244図 雨だそうだ—その2—	AMEDACCAA	②C	211	宮城県	気仙沼
107	第246図 雨だそうだ—総合図—	AMEDAJOODA	②C	212	岩手県	宮古
		AMENAJOODA	②C	213	宮城県	亶理
		AMEDACA	②C	214	宮城県	気仙沼
108	第247図 高いそうだ—その1—	TAKEEJOODA	②B	215	宮城県	亶理
109	第248図 高いそうだ—その2—	TAGECCAA	②B	216	宮城県	気仙沼
110	第249図 高いそうだ—その3—	TAGEEDJOO	①B	217	岩手県	階上
111	第251図 いたそうだ—その2—	ITAZIIGA	①B	218	岩手県	宮古
		EDACCANDACCA	②B	219	宮城県	気仙沼
		EDANDACCA	①B	220	宮城県	気仙沼

地図数	地図番号 見出し[調査票質問番号]	危機語形	類型	語No	都道府県	「市」以下
112	第252図 いたそうだ—その3—	ETATTAZO	①B	221	岩手県	釜石
		EDATTEZJUTERU	①A	222	宮城県	亶理
113	第254図 どこかに(あるだろう)	DOGODAAGANI	①A	223	岩手県	宮古
114	第256図 (それは)何か	NANISSA	①B	224	宮城県	志津川
115	第257図 誰が行くか(分らない)[187]	DAI	②B	225	宮城県	石巻
116	第259図 誰がやるものか[193]	DAGA	②B	226	岩手県	田野畑
117	第260図 誰がやるものか—その1—[193]	JARUNDA	②B	227	宮城県	亶理
		JARUNDABEE	①B	228	宮城県	亶理
118	第261図 誰がやるものか—その2—[193]	JANHANDIE	①A	229	岩手県	田野畑
		SURUDEE	①B	230	岩手県	階上
		JANBESSA	①B	231	宮城県	気仙沼
		JANNO	①A	232	福島県	相馬
		KETEJATTA	②C	233	岩手県	山田
119	第263図 やった	KETEJATTA	②C	233	岩手県	山田
120	第265図 やったか[209]	DOO	①B	234	青森県	八戸
121	第270図 ありがとう—総合図—	MOOSIWAKNAI	②B	235	岩手県	釜石
		SUOSISAMADESU	①B	236	宮城県	石巻
122	第271図 書きますか(B場面)[252-B]	KAGASARIMASU	①B	237	岩手県	階上
123	第272図 書きますか(B場面)[252-B]	KASU	①B	238	福島県	小高
124	第274図 書きますか(A場面)[252-A]	KASU	①B	239	福島県	小高
		NOGAJA	①B,①A	240	宮城県	女川
125	第275図 どこへ行きますか(B場面) —一般動詞—[246-B]	EGASARIMASU	①B	241	岩手県	階上
		EGUDOGODEGOZANSUGA	①A	242	岩手県	田野畑
		EGASSJARUNDESU	②B	243	福島県	いわき市植田
		IGIENDESUKA	①A	244	宮城県	気仙沼
		IGIENOSUKA	①A	245	宮城県	気仙沼
126	第276図 どこへ行きますか(B場面) —敬語動詞—[246-B]	IGIENONEESU	①A	246	宮城県	気仙沼
		ONNASARISUKA	①A	247	宮城県	志津川
127	第278図 ここに来ますか(B場面) —一般動詞—[250-B]	ODENSUBEEGA	①A	248	岩手県	山田
		KJANSUKA	②B	249	岩手県	釜石
128	第279図 ここに来ますか(B場面) —敬語動詞—[250-B]	KURUNODEGOZARJASUKA	①A	250	宮城県	気仙沼
		KIJANNODEGOZARJASUKA	①A	251	宮城県	気仙沼
		KUNNOSUKA, KAJA	①B	252	宮城県	亶理
		KUNNOSUKA, KAJA	①B	253	宮城県	石巻
129	第280図 ここに来ますか(B場面)[250-B]	MEERJAROKA	②B	254	岩手県	山田
		ONNASARISUKA	①B	255	宮城県	志津川
130	第281図 いますか(B場面)—一般動詞—	KOGOE	②B	256	青森県	八戸
131	第282図 いますか(B場面)—敬語動詞—	ORIMASUNDONSIGAA	①A	257	岩手県	田野畑
		ORJANSUBEEGA	①A	258	岩手県	山田
		ORJANSITEGOZARJASUKA	①A	259	宮城県	気仙沼
		INNOSUKA	①B	260	宮城県	女川
		ENDESUKAJA	①B	261	宮城県	女川
132	第283図 いますか(A場面)—一般動詞—	ONNASARISUKA	①A	262	宮城県	志津川
133	第284図 いますか(A場面)—敬語動詞—	ENDESUKAJA	①A	263	宮城県	女川
		IJANBEKA	①A	264	宮城県	気仙沼
		ORJANSUKA	②B	265	岩手県	山田
		ORENSIKA	①A	266	岩手県	宮古
		ORIMASUNDONSIGAA	①A	267	岩手県	田野畑
134	第287図 知っていますか(B場面) —一般動詞—[251-B]	ORJANSUKA	②B	268	岩手県	山田
		IRUNSIKA	①B	269	岩手県	宮古
		INNOSUKA	①B	270	宮城県	気仙沼
		ESUKA	①B	271	宮城県	志津川
		IPPEKA	①B	272	宮城県	石巻
135	第291図 食べますか(B場面)—一般動詞—	TEORARJANSUKA	②B	273	岩手県	山田
		DEORENSIPPEGANENSI	①A	274	岩手県	宮古
		TEORJASITEGOZARJASUKA	①A	275	宮城県	気仙沼
		TEORJANBEKA	①A	276	宮城県	気仙沼
		TENDESUKA	②B	277	宮城県	女川
		TENNOSUKA	①B	278	宮城県	女川
		TEDAGAINANSU	①B	279	宮城県	亶理
136	第292図 食べますか(B場面)—敬語動詞—	TEKASU	①A	280	福島県	小高
		OTABENINARJARJANSUKA	①A	281	岩手県	山田
		TABENSU	①B	282	岩手県	釜石
137	第293図 言いましたか(B場面)—一般動詞—	TABENSUTESUKA	①A	283	宮城県	志津川
		AGARASARIMASUKA	①B	284	岩手県	階上
		OAGETTEODESIKKA	①A	285	岩手県	宮古
		AGARJASITEGOZARJASUKA	①A	286	宮城県	気仙沼
		AGARJANBEGA	①A	287	宮城県	気仙沼
138	第293図 言いましたか(B場面)—一般動詞—	IJATTANDEGOZARJASUKA	①A	288	宮城県	気仙沼
		ETTANDEGOZARISUKA	①A	289	宮城県	志津川
		IWASITADESUKA	①A	290	宮城県	志津川
		NANCUTTAGASUPEJA	①A	291	宮城県	石巻

地図数	地図番号 見出し[調査票質問番号]	危機語形	類型	語No	都道府県	「市」以下
138	第297図 行きなさい(B場面)—一般動詞—	ITTOODENSE	①A	292	岩手県	田野畑
		IKAHARJASE	①A	293	宮城県	気仙沼
		EGASSEE	①B	294	宮城県	亶理
		NKISEE	①A	295	福島県	小高
		EKASSEE	①B	296	福島県	檜葉
139	第298図 行きなさい(B場面)—敬語動詞—	OEDENAEN	①B	297	宮城県	志津川
140	第299図 行きなさい(B場面) —297, 298に続く形—	TANSEE	②A	298	岩手県	釜石
		DAAHARJASE	①A	299	宮城県	気仙沼
141	第300図 来なさい(B場面)—一般動詞—	KISEE	①A	300	福島県	小高
		OIDENSEJA	①A	301	岩手県	釜石
142	第301図 来なさい(B場面)—敬語動詞—	OEDENNASUT	①A	302	宮城県	志津川
		TEKUNAEN	①B	303	岩手県	釜石
143	第302図 来なさい(B場面) —300, 301に続く形—	TEKUNAEN	①B	304	宮城県	志津川
		ORAHARJASE	①A	305	宮城県	気仙沼
144	第303図 いなさい(B場面)—一般動詞—	ESEE	①B	306	福島県	小高
		ESSAE	①B	307	福島県	檜葉
		N	①B	308	宮城県	女川
145	第307図 はい、行きます(B場面)[247-B]	N	①B	309	福島県	小高
		MAIRITAEODOMOTTEMASU	②B	310	岩手県	田野畑
146	第308図 はい、行きます(A場面)[247-A]	SOODANENSI	①A	311	岩手県	宮古
147	第309図 はい、行きます(A場面)[247-A]	NDA	①B	312	宮城県	石巻
		EGUBEEDOMOTTEDAGA	①B	313	岩手県	田野畑
148	第310図 はい、行きます(O場面)[247-O]	IGUBEKA	①B	314	岩手県	宮古
		IKUBEE	①B	315	宮城県	亶理
149	第312図 来ます(B場面)	IKUBE	①B	316	福島県	相馬
		IKUBE	①B	317	福島県	檜葉
150	第313図 来ます(A場面)	KENSI	①A	318	岩手県	宮古
151	第314図 います(B場面)	KENSI	①A	319	岩手県	宮古
152	第315図 (自分の父が)来ますから(B場面) —一般動詞—[264①-B]	IJASITEGOZARJASU	①A	320	宮城県	気仙沼
		KISUTESA	①A	321	宮城県	志津川
153	第316図 (自分の父が)来ますから(B場面) —敬語動詞—[264①-B]	KISSU	①B	322	宮城県	女川
		MEERJANSU	②C	323	岩手県	山田
154	第319図 あげましょう(B場面)	JARASITEGOZARJASUPE	①A	324	宮城県	気仙沼
		AGESITEGOZARJASUPE	①A	325	宮城県	気仙沼
		OAGESANSU	①B	326	岩手県	山田
		KEBEENSIIKA	①A	327	岩手県	田野畑
		AGESUTESUKARA	①B	328	宮城県	志津川
155	第320図 持ちましょう(B場面)	JARISUPAWA	①A	329	宮城県	亶理
		MOTTEAGEMOOSANSUKARA	①A	330	岩手県	山田
156	第321図 寒いですね(B場面)[244-B]	MOZUASITEGOZARJASU	①A	331	宮城県	気仙沼
		SAMUKUGOZARASU	①B	332	宮城県	気仙沼
157	第322図 寒いですね(B場面)[244-B]	OSAMUUGOZARISU	①B	333	宮城県	志津川
		SIBARERU	②B	334	岩手県	階上
158	第323図 寒いですね(A場面)[244-A]	GANENSI	①A	335	岩手県	宮古
159	第325図 寒いですね(O場面)[244-O]	SIBARERU	②B	336	岩手県	階上
160	第326図 寒いですね(O場面)[244-O]	SIBARERU	②C	337	岩手県	階上
		GANANSI	①A	338	岩手県	田野畑
161	第330図 本ですな(A場面)[261-A]	GODDA	①B	339	宮城県	志津川
		GOTA	①B	340	宮城県	志津川
162	第331図 いいえ、役場ではありません(B場面)[248-B]	DEGOZARJASENDEGOZARJASEN	①A	341	宮城県	気仙沼
163	第332図 いいえ、役場ではありません(B場面)[248-B]	IECIGAIMASUJO	②B	342	岩手県	田野畑
		NDENEE	①B	343	宮城県	石巻
		EEE	①B	344	岩手県	階上
		JAA	②B	345	宮城県	気仙沼
		JA	②B	346	宮城県	志津川
		NN	②B	347	福島県	小高
164	第334図 あなたの傘(B場面)[242-B]	GA	①A	348	岩手県	大船渡
165	第335図 あなたの傘(A場面)[242-A]	SOCIRASAN	②B	349	岩手県	宮古
166	第336図 あなたの傘(O場面)[242-O]	EGA	①B	350	青森県	八戸
		GA	①B	351	青森県	八戸
		UGA	①B	352	岩手県	階上
167	第337図 あなたの傘(O場面)[242-O]	GAN	②B	353	岩手県	宮古
168	第341図 私のです(O場面)[243-O]	E	②B	354	青森県	八戸
169	第347図 役場になあ、行ったらなあ(A場面)[245②-A]	KEE	①A	355	宮城県	志津川
170	第348図 役場になあ、行ったらなあ(O場面)[245②-O]	SA	②B	356	岩手県	階上
171	第349図 おはようございます	ARIGADOGASU	①B	357	青森県	八戸
172	第350図 こんばんは	EMASUKA	①A	358	岩手県	釜石